

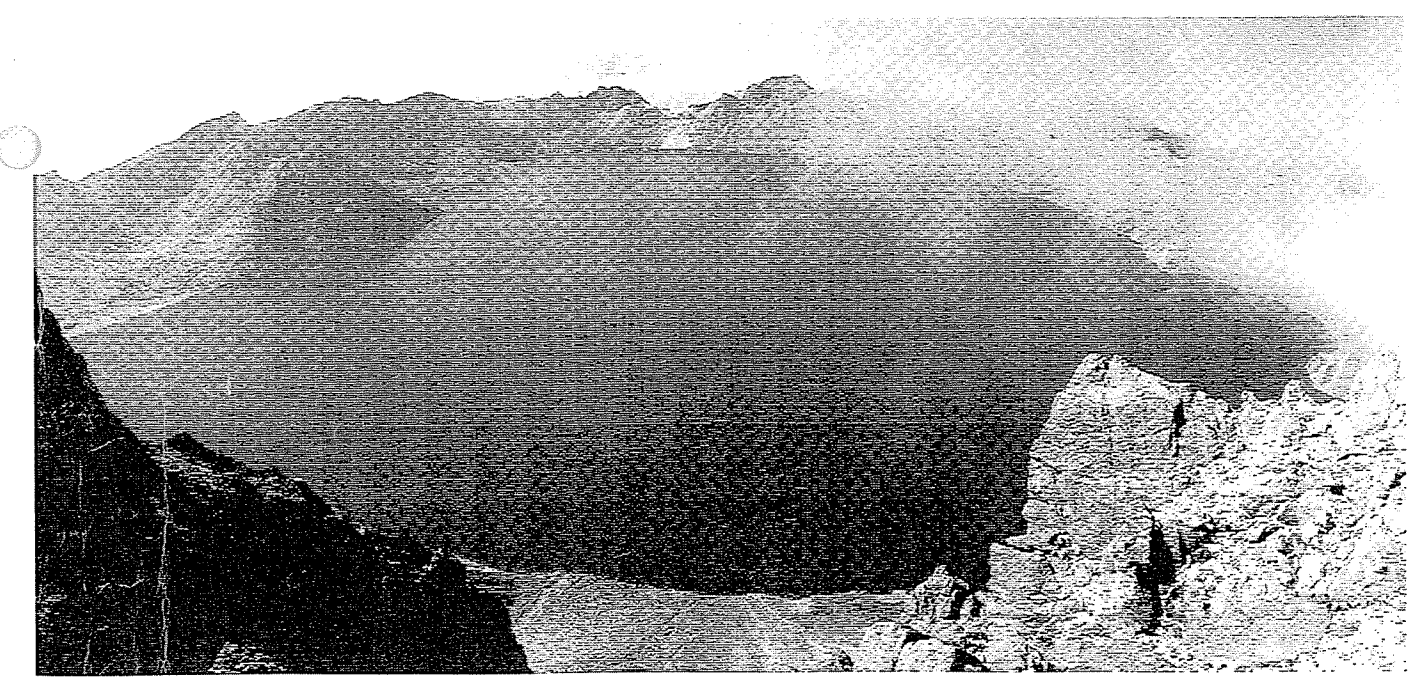
천지인문

天池人文

～我々が考え、我々が実行し、我々が支援し、我々の夢を実現する～

CHONJI CULTURE

Vol.2 No.7 1998年12月 総第20期



天池倶楽部 発行

CONTENTS／目录／목차／目次

巻頭エッセイ	1
新年祝辞	2
転換期にある海外同胞社会	3
在日本中国朝鮮族は既に組織化社会へ	7
新しい”8年抗戦”	8
私と中国朝鮮族との出会い [1]	9
中国経済が世界における位置	11
新しい中国朝鮮族の中心—沈陽市西塔コリアタウン (上)	12
間島日本領事館	15
何時も懐かしい故郷	16
金芝河講演会	17
長白のメアリー皆で一言	19
漫画	20
1998年朝鮮族忘年会	22
第45回天池倶楽部定例会開催	23
日・中・韓語学研究所語学教室 受講生募集	24
在日中国朝鮮族データバンクの設立について	25
アジア各国経済統計	26
延辺大学の沿革	28
ようこそレインボー通商へ	30

巻頭エッセイ

天池から見た；一滴の水、一握りの土、一塊の石の貴さ

陳 万哲

自然の力と言うものは無限であり、偉大な存在でもある。地球上に様々な奇跡を作り上げたその力は我々人類になにを伝えようとしているのでしょうか。

天池は偉大な自然の力の象徴である。海拔2744メートルの白頭山の頂上に居座っているその英姿、一日片時に出来上がったものではありません。長い自然歴史の流れの中、一滴、一滴の水が集まり、一握り、一握りの土、一塊、一塊の石が融合し、支えあってその偉大なる力で自然界にもう一つの奇蹟を残したものである。

人々は皆、天池は奇麗です。素晴らしいです。等など、賛美を惜しみません。しかし、誰一人も天池を支えあげ、作り上げたそれぞれの水、石、土には目も触れようとしません。

勿論、一滴の水は忽ちのうちに蒸発し、一握りの土は風に飛ばされ、水に流され、また一塊の石も風化され、すぐに影も形も跡もなくなる。まったく、無意味であり、みすぼらしいそのものである。だが、集まって、集まったらみたらどれくらい巨体な力になり、偉大な存在になっているのでしょうか。

何のため、誰のためでもなく、黙々と天池を支えて来た、これからも支えて行く一滴の水、一握りの土、一塊の石の『精神』というものはどれほど貴いものであるのでしょうか。

我々の天池倶楽部もまったく同じ存在である。

自然的に自発的に集まり、無名の一名、一卒の献身的な努力と奮闘の結晶である。彼らは自分自信、個人のため、何の利益の追求のためでもありません。ただ、同じ民族が異国、他郷でお互い助け合い、交流し、支援しあい、共同発展のためである。

天池の一滴の水、一握りの土、一塊の石が大切であるように、天池倶楽部でも会員それぞれの力、知恵、協力がとても大事なことである。

ですから、我々天池倶楽部を自然界に聳え立つ天池のように朝鮮民族の青史にその名を残し、役割を果たすためには会員の皆さん、有志人士各位がこれからでも天池倶楽部の無名の貴い『一滴の水、一握りの土、一塊の石』の力になってくださいませんか。

GROWING UP 98

—新たな可能性の船出—

1995年3月25日、21世紀の東北アジアの一翼を担うべく設立されて以来、はや3年が過ぎようとしております。振り返れば、いかにも短く感じられる期間ではございましたが、まさに夢に向かったこの3年間は、天池倶楽部全会員が一丸となり、熱く燃えるような想いで走り抜けてきたように思います。

設立当初、5名足らずでスタートしたものが、現在120名を数えるようになり、思いもよらなかった存在になり、どちらかと言うと“順水推舟”のような印象をお持ちになる方も多いのではないかと存じます。しかし、ゼロからのスタートは、決して楽なものではございませんでした。

バスカルの「賭の論理」というものをご存じでしょうか。この世に神はいるか、いないか、賭をするという「バンセ」に出てくる有名な話です。神様がいないと賭けた人も、神様がいないと賭けた人も、結論は2つに1つですから、どちらも50%、50%の確率です。ところが、「神様がいない」ほうに賭けた人は、いないと信じ込んでしまうわけですから、もしも神様が存在したときの施しという心の安らぎは体験できないわけです。一方、「神様がいます」ほうに賭けた人は、もしも本当にいたら、ものすごいメリットを享受できます。つまり、結果はフィフティ・フィフティでも、賭に勝ったときの喜びの度合は天地の差があります。そこでバスカルは「私は神がいるほうに賭ける」というわけなのです。

人間が、この世に生きてきたということは、すでに「生きる」というほうに賭けたことになります。また、集団や組織や新しくスタートするときも同じことがいえます。積極的なほうに賭けていかなければ、期待する結果は得られないであろうし、結果論だけでものというスタイルでは、決してチャレンジ精神は生れてこないだろうと思います。

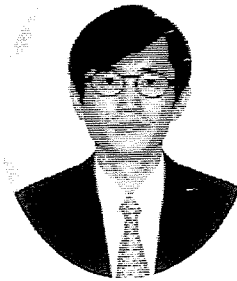
私たちの集団、天池倶楽部は、広く活動展開を計っています。この集団の中心は、誰ひとりではありません。会員一人ひとりが中心なのです。中心点がいくつ

もある「楕円」が、天池倶楽部の理想とする姿なのです。確かに中心点が一つしかない「円」は美しいものですが、それは奇跡的な形です。むしろ「楕円」のほうが自然体であり、民主主義の原点

であり、視点を三つも四つも持って行動しなければ人も集団も生き延びることかできない時代、それがこの我々が生きている時代であろうと考えます。

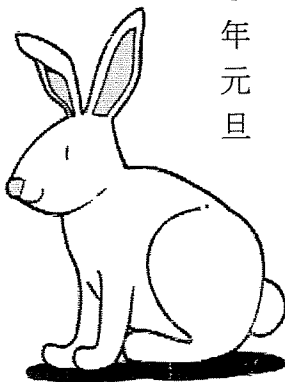
GROWING UP 98 は、天池倶楽部の新年キャッチフレーズです。会員一人ひとりが自分自身を成長させること、それが結果的に天池倶楽部全体を成長させることになります。詩人ヘンリーが予言詩の中で唱えている、“私こそ、わが運命の支配者であり、わが魂の船長なのだ”という言葉は、全社員に共通する真理の詩であろうと思います。なぜなら、運命を甘受して努力することを放棄したり、目標を簡単に締めたりするくらいなら、私たちの生れてきた理由は何も失くなってしまふからです。

天池倶楽部報“天池人文”には、全体として、より大きな「楕円」を描くためのコンパスの役割を期待しています。倶楽部の指針を我々が考え、我々が示し、会員相互のコミュニケーション・ネットワークを広げ、時代の使命感があふれるイメージで命名されたこの“天池人文”が、会員の皆様に末永く親しまれますよう祈念致しまして、私の新年御挨拶とさせていただきます。



謹
賀
年

PIAO HE



9
9
年
元
旦

転換期にある海外同胞社会

—— 中国朝鮮族社会と在日本同胞社会を見て ——

19世紀半ば頃、朝鮮の貧しい農民たちが土地を求めて中国に渡ったのが中国での朝鮮人社会形成の元であり、1910年日本が朝鮮を侵略することによって朝鮮から大量の難民がきたのが中国朝鮮人社会の定着である。1910年から1920年まで移民の数は20万人にのぼり、1920年中国で朝鮮族の数は45万人になった。私の祖母も13才の時(1918年)中国に渡った。今中国にいる200万人の朝鮮族は大体その時に渡った人たちの子孫である。現在中国に住んでいる朝鮮族は大体60代は移民2世であり、30代は移民3世であり、10代は4世である。基本的に中国朝鮮族は移民3世の時代である。中国朝鮮族の歴史は主に三つの段階に分けて見ることができる。

1. 水田の開墾と抗日独立運動期の1世朝鮮人：(1845年—1945年)

朝鮮人が中国に来て野原を開墾し、水田を作って稲作をした。水田を作る墾民として生きたことは中国朝鮮族のその後の生活に深い影響を与えた。後のことだが、中国で一番広い東北平原の水田はほとんど中国朝鮮人が開墾している。水田の開墾に伴って、朝鮮人の村がつぎつぎに形成され、土地と共に延辺など朝鮮人生活区域が形成された。

1910年日韓合併によって、朝鮮人は亡国人になり、祖国独立は朝鮮民族にとって、生と死の問題となった。その時、大量の朝鮮人が中国にきた。その中に、民族主義者、社会主義者、知識人など多くの人が朝鮮人生活区域を中心に独立運動を展開し、中国朝鮮人社会は独立運動の中心地となった。

2. 中国共産党指導下の移民2世朝鮮族：(1945年—1978年)

中国共産党の土地政策、民族政策、抗日政策そして理想社会での約束は中国朝鮮人に大きな影響と共感を与え、大多数の朝鮮人は共産党を支持し、入党することになった。

1949年中華人民共和国が成立し、50年朝鮮戦争が起こった時、中国人民解放軍にいた朝鮮族軍人は中国共産党の指導を受けて北朝鮮を支持し、この戦争に参加した。

この時代は世界的には冷戦の時代であり、朝鮮民族としては分断の悲劇的な時代である。この時代に、中国朝鮮人の民族運動は中国社会主義政治運動に全面的に吸収され、中国朝鮮人は中国国籍を持つ朝鮮族になり、中国社会の一部になり、漢民族と平等に中国で生活することになった。移民2世は朝鮮半島と共に生きる移民1世と違って、朝鮮半島に対する関心より、中国社会主義建設にもっと関心を持つようになった。

そこで、朝鮮族の運命も中国政治に大きく左右されることになった。

移民1世の職業はほとんど農業であるが、2世は、労働者、技術者、大学教授、公

務員、軍人など多様な職業を持ち、農村を離れて都市で生活する人が増えた。

3. 改革開放時代の移民3世朝鮮族：

改革開放は社会主義解体の始まりでもあり、自由経済と民主政治の始まりでもある。

1989年の天安門事件、ベルリン壁の崩壊、93年中韓外交関係確立、ソビエト解体、97年香港返還、韓国民主制度の確立など世界は大きく変わっている。朝鮮半島は分断そのままであるが、世界的には冷戦がもう終わったのだ。

中国朝鮮族には新しい時代が始まった。移民1世から教育を命のように重視した結果、3世には大学教育を受けた人がたくさん輩出した。この時代の特徴は個人主義と経済主義である。即ち、個人の富を求めることである。1世は独立運動、2世は中国社会主义建設、3世は個人経済である。この時代に農民は1世、2世が築いた生存基盤——水田からどんどん離れ、都市に、そして韓国に、海外にお金を稼ぐために行き、学生は留学に行くか、或いはビジネスをやる。農業で生きた朝鮮族がビジネスで生きる道を選ばざるを得ない。

子供の時、私は大人から日本にも同じ朝鮮民族が住んでいて、その人たちは自分の放送局をもっていることを聞いたのが印象的だった。大学に入って、日本人学生がチマ・チョゴリを着た朝鮮人女子学生に石を投げる事が頻繁に起こることとか、在日同胞たちが指印押捺することに反対する運動を展開することなどについて聞いた。そして、韓国を支持する団体と北朝鮮を支持する二つの団体に分かれていることを聞いて、何だか、空しさ、悲しさを覚えたことがある。91年日本に来て、7年経ったいまになって、私は在日同胞のことについて少し分かるようになった。在日同胞の歴史は三つの段階に分けて見ることができる。

1. 解放前（1909年—1945年）

在日本朝鮮社会の形成は主に日本帝国主義の政府主導の朝鮮人強制連行によって形成された。1939年から1945年の間に150万の朝鮮人が連行されたことは日本侵略戦争に必要な労働力ほかならなかった。それは自由な労働者ではなく、日本刀の下で強制的に働かされたのである。これは、生きるために自ら進んで中国に渡った移民と大きな違いがある。

この時代は、在日朝鮮人にとって、暗黒な時代であり、自由と人権を獲得するために戦った時代でもある。この時代在日朝鮮人の運動は社会主義運動、民族主義運動などがあった。

2. 冷戦の時代

1945年、祖国は解放を迎え、日本にいる朝鮮人約180万が祖国に戻って、46年末に60万人ぐらいの朝鮮人が日本に残った。この時代に在日同胞社会に二つの対立した組織が生まれた。総連と民団である。冷戦が終わった今も二つの組織が対立して存在している。総連は民族教育に大きな貢献をしたが、社会主義と北朝鮮の現実

を見る勇気を失っている。民団は韓国と共に民主主義の道を歩むことになったが、民族教育にもっと力をいれるべきだと思う。在日本同胞は中国朝鮮人移民1世のように祖国と共に生きる意識が強い。中国移民1世は独立を中心課題にしたとすれば、在日同胞は祖国の統一を中心課題にした。そして祖国と共に生きる姿勢は祖国の政治に深く関わることになり、結局日本同胞社会も民団と総連という分断構造になった。

この時代に中国朝鮮族は中国社会から差別をほとんど受けていないが、在日本同胞は差別の中で生き、この差別、弾圧と今まで戦ってきた。中国朝鮮族は民族性を保存しながらも、団結力は弱く、中国社会で独立性を持った組織がない。在日本同胞は民族性を保存するために戦い、そして強い組織力をもっている。

3. 冷戦の終焉

世界的に社会主義が崩壊し、民主主義が人類社会のメインになっている。在日本同胞社会は民団と総連に関係なく活発に交流している人、組織が増えている。祖国に関しても支持だけではなく、批判意識が強くなっている。

1世、2世在日同胞は仕方がないから日本に生きるが、今10代の小学生たちが大きくなれば、祖国に帰えろうと思うより、日本社会或いは世界で強く生きる道を選ぶだろう。

海外同胞社会は大きな転換期にある。中国朝鮮族は朝鮮半島政局からの分断の影響を受けないが、中国社会から独立性を持てないし、在日同胞は日本社会からは独立性を持っているが、朝鮮半島の政局に強く左右される。どうすれば、海外で生きる500万朝鮮民族が民族のアイデンティティーを強く持ちながら、生きる土地に強い基盤を持ち、世界を舞台に活躍することができるだろうか？

これに答えを出すためにはまず、海外移民の運命と民族的な役割と使命が大きく変わったことを認識しなければならない。

我々はまず海外で生きる運命を甘受しなければならない。いつか祖国に戻る意識は3世、4世でも心のどこかに潜在している。この意識は運命からの逃げ道にしかない。辛さに耐えて生きるのが我々の道である。

海外同胞の運動を見れば時代によって独立運動（在中国同胞）、統一運動（在日本同胞）民主運動（在美同胞）などがあるが、それは祖国の運命と海外同胞の運命が深い関わりを持っていることを物語る。韓国の経済発展と民主主義の確立、そして時代の変化によって、海外同胞の民族的な役割と使命は大きく変わった。海外同胞は祖国中心から海外同胞の発展を中心に転換する時代がきた。“祖国のことは祖国の人が、海外のことは海外の人が”という役割分担があってはじめて、祖国への依頼から独立した強い高麗人が生まれる。

“祖国への思い”は海外同胞社会が存在できる重要な精神的場（マダン）であるが、“祖国のことは祖国の人が、海外のことは海外の人が”ということになれば、海外同胞は同化され、なくなる危険性もある。これを防ぐために、我々が高麗人として発展するために、

海外同胞は自分の力で、海外で大きなエネルギーを生む場（マダン）作らなければならない。自分から、隣の同胞から始めて、自由と独立の人格を前提に交流、協力を重ねれば、個人個人の発展を生む場（マダン）が形成される。この小さな場が村を越えて、都市を越えて、国を越えて、世界に広がれば、我々は海外で大きな場を形成するに違いない。この場は経済場であり、文化場であり、精神場でもある。そして、この場は空間と時間を超越して我々の心の土地になるだろう。そして、私の心が私の祖国であり、我々が生きる世界が我々の祖国になるだろう。

祖先が血と涙と汗で歩んできた道の延長線で私達は世界に向かって立っている。祖先が守ろうとしたものを、祖先が歩んだ道を嘲笑しない限り、我々は希望に向かって歩めるにちがいない。

1998年12月19日

李 東哲
(遼寧)

<開催概要>

日 時；十二月二十八日（月）18：00～20：30

場 所；金宝楼レストラン（新宿区新宿五-八-六、ホテルたてしな1F）

電 話；03-3350-0487

講演者；王 少普（上海社会科学院アジア・太平洋研究所副所長・教授）

テーマ；江沢民主席訪日後の日中関係（現状と未来）

講演者；段躍中（日本僑報、在日中国人大全等編集長、著名な在日中国人スポーツマンとして注目されている。元中国青年報記者）

テーマ；在日中国人について

会 費；3、500円

申込先；日中経済発展センター

〒136-0071 東京都江東区亀戸2-6-2-315

電 話；03-5628-7070

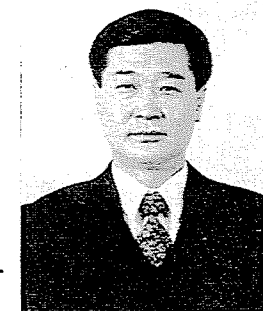
FAX；03-5628-7071

私たちの歩むべき道は？

私はこう考える

百花斉放・百家争鳴

在日本 中國朝鮮族도 인젠 組織化 社會로



日本에 온지 不過 半年밖에 안되는 저로서는 留學先輩, 事業先輩 그리고 “不法滞留”라는 딱지를 달고 勞苦트 치르시는 우리 同胞들께 各自의 成功을 위한 努力에 感謝의 말씀만 드릴 뿐이다.

改革開放後 中國朝鮮族의 日本 進出은 80年代 初半부터 아닌가 본다. 타지방은 잘 모르겠으나 延邊大學 姜貴吉, 金鐘天, 李柱石 등 큰 先輩님들의 學問의 길 딱기로 그 始作을 이루었고 金熙德, 李東哲 등 40대 中半者들이 그 뒤를 이었으며 現在도 20대-40대 젊은 사람들이 日本에서 活躍 하고 있다. 職業構造도 아주 多樣하게 나타나 정말로 “별 늬”을 다 볼수 있는 程度다. 이러한 學的, 人的, 머지않아 싸여질 財的인 資源을 잘 開發利用한다면 中國朝鮮族의 日本社會의 定着은 虛構적이 아니라 생각한다. 定着이라해서 다 日本에서 살아야만이 定着이 아니다. 우리가 日本사람들에게 주는 이미지, 우리의 日本社會에 대한 貢獻度, 우리 個個人の 事業成就度 등을 모아 놓으면 그 민족의 能力과 自我意識의 表現으로서 定着하게 된다. 이러한 定着의 第一優先前提는 個個人の 事業成就다. 그 다음은 組織化다. 天池俱樂部가 이러한 組織構成의 初期形態가 아닌가 생각되는데 美國의 韓國移民初期組織形態를 보면 同門會, 同窓會, 同鄉會⇒商工會, 教會⇒協會, 學會式으로 50년 이란 時間을 걸쳐 現在는 相當한 힘을 가지고 있는 科리안 社會를 이루고 있다. 우리가 日本社會에서 뭔가를 爲해 奮闘하고 있다는 点에서는 너나 없이 똑 같은 立場에 處해 있다. 이것은 廣範圍한 組織構成의 可能性을 보여 준다. “큰 틀안에 작은 틀, 작은 틀밖에 큰 틀”의 式으로 多元多層한 非緊密構造의 組織形態로부터 始作해 우리 中國朝鮮族도 이제 다가 올 새 世紀를 맞으면서 日本에서의 各自의 꿈의 實現과 後世에게 새로운 꿈을 심어 줄 수 있는 基盤을 다져 나가야 한다.

연변대학 지리과교수 현/明治大學 客員研究員
田 景

新年会 ソウルスペシャル航空券

1月4日～2月28日の月・火・水 2泊3日¥19、800円

●その他特別キャンペン

ロサンゼルス 39、800円より

ヨーロッパ 56、800円より

●お申し込み・お問い合わせ…サイクルツアー TEL 03-5660-3500

FAX 03-5560-0401

新的“八年抗战”

金 炳哲

从一九九〇年踏进日本到一九九八年现在,对于我来说,应该是新的八年抗战。今后,我想用8进制数来计算在日的时间及抗战次数。

一九八九年,当日本最景气的时候,日本软件行业大举进军中国。适时,日本A社预定在辽宁办软件合资公司,为此招五名管理技术人才。由于日方鸡蛋里挑骨头-要求太严,因而,参加第一次考试的七二人中无一人通过。到了第二次,预先挑选的一三人硕士,经过上午的笔试和下午的面试,三人颖脱而出。一九九〇年初,国内正是政治敏感的时代,“出国需要”“出境卡”。我们认为,出国无望了。但是,“出境卡”实施期限的前四天,我们奇迹般的飞上天了。从此抗战游击队生涯便开始了。

A社为了将来的合作伙伴,在生活上优待,住“一户建て”,在工作上严格要求,边学习,边工做。“严师出高徒”,我们的日语和技术水平有了长足进展。好景不长,随着泡沫经济的崩溃,办合资公司的梦也随之破灭了。八仙过海,各显其能。我们在即将沉底的船板上,不得不重新自找出路。经过多个学校的走访和教授的面试,虽然允许从硕士开始念,但为了从博士开始念,我必须在战术上施技巧。先用英语,扬长避短,后用日语,顺畅交流。从公司转战到学校,签证上从研修变为留学,没想到刚刚跳出龙潭,却又进入了虎穴。

当时读博士后期课程的人并不多。因而,我们都有不同程度的奖学金。而且,打工也好找。打工是一个人体力和意志的锻炼,奖学金是推动横跨学海的引擎。在学校和工地之间,神出鬼没打游击,谱写了一曲从打工推动学业的新华人篇章。第二年,我校有2名获得了文部省奖学金。每个月18.5万日元和学费免除,这些还显得不富,政府实行“帮富不帮穷”政策,对于国费生又补助住房费和旅游费。看着自费生真是不好意思。东边下雨西边晴,道是无情似有情。在受到奖学金滋润的同时,又遭到了暴风骤雨。教授在全体大会上公开指名我是“税金贼”。而且在研究上毫无情面,斥责的程度也比宋公明还及时雨。夙兴夜寐很自然,通宵达旦不稀奇,连续通宵算研究。很多人说:读博士得半死。好在我有练武术的身体,所以还活着毕业了。留学生活,使我功夫全费,换来4次奖状,让老师满意,并推荐我就职。从学校转战到公司,签证上从留学变为技术,没想到刚刚逃离虎穴,却又陷入了五里雾中,失去了奋斗目标。

我所在的研究所人员,每人有多个研究题目,因而,新入社员也要自力更生。我利用“税金贼”的神偷技术,先搞了画像处理和流体设计2项新课题,一年内获5项专利,为公司开辟了新天地,也因此破格被提拔为主任。但是,日本的经济仍在混沌雾中,今后怎样也不知,只能徘徊观望。

回顾历史,抗战八年,为的是幸福生活。如今,当年抗战英雄之儿女,争先恐后,东渡日本。在新的八年抗战中,新华人越抗越热爱日本地理,越抗越为日本创造财富,而且,其儿女又完全日化,说得是日本话,吃的是日本食品,讲的是日本习惯。我想下一个抗战八年应该是和自己的小日本人的抗争了。

私と中国朝鮮族との出会い [1]

舘 野 哲(自由寄稿家)

私は1935年に中国の大連市で生まれ、敗戦後に日本に帰ってきたから、中国大陸には10年間いたことになる。その間、大連・遼陽・北戴河などで少年時代を過ごした。だから私は典型的な植民地二世である。しかし、日本人の小学校に通い、日本人とだけ遊び、中国人に親しい友達はいなかったし、日本人社宅に住み食べる物も純日本風だった。当時、五族協和がスローガンだったが、満州族や朝鮮族がどのように暮らしているかは、まったく知らなかった。子供のころの私は、汽車の時間表や地図を広げて空想の旅を楽しむのが好きだった。だから中国の駅の名前はいまもよく覚えている。

大学では中国研究会に所属し、卒業後は日中友好協会の会員になった。「文革」のときには善隣学生会館(現在の日中会館)で、「反中国分子」との物理的な対決をしたこともある。けれどもだんだん「文革」には共感できなくなって、友好協会の会員を辞めた。

そのころ出張で韓国に出かけた。それまで朝鮮・韓国のことは知っているつもりだったが、最初の訪問の印象はとても強烈だった。なかなか心の中が読めない日本人と違って、喜怒哀楽をストレートに示す韓国人の直情さが好きになってしまったのだ。その後はすっかり韓国にのめり込んでしまい、友人のネットワークが広がり、仕事のうえのかかわりも生まれるようになった。

中国朝鮮族との出会いは、いつどんなきっかけだったか、はっきり覚えてはいないが、多分、在日朝鮮人の親しくしている方の紹介によるものだろうと思う。ひとりの知り合いが生まれてからは、次から次へと付き合いの輪が広がっていった。そして大学の進学情報を提供したり、アパートを紹介したり、身元保証人になったり、生活費の援助をしたりと、私なりに、彼ら彼女らの勉学や暮らしのお手伝いをしてきた。うれしかったのは私のそうしたサポートに、みんながきちんと結果を出して答えてくれたことである。私自身もいろいろ中国朝鮮族のことを教えてもらって、東アジア理解の幅を広げることができた。

96年秋には、ついに念願の延辺朝鮮族自治州を訪問し、白頭山天池にも尹東柱のお墓にも朝鮮国境にも行くことができた。そしていまや延辺訪問回数は3回になった。そして訪問のたびに新たな発見をしている。いま延辺地区も大きな変貌のときを迎えているようだ。朝鮮族独自の世界を維持するのがむずかしくなってきたのである。経済的な豊かさの追求が、直ちに民族性の喪失にはならないにしても、表面的な観察によると多分にその方

向に流れているようだ。

中国朝鮮族との付き合いのなかで、2冊の本をつくることができた。1冊は友人3人と共訳した『聞き書き中国朝鮮族生活誌』（社会評論社刊、原著名『中国朝鮮族移民紀実』中国朝鮮族青年学会編）である。これは現在ハーバード大学で、中国仏教研究に励んでいる金勲（北京大学副教授）氏と東京で出会って、彼からこの本を紹介されたのがきっかけだった。朝鮮半島から旧満州各地への朝鮮族のきびしい移住体験が、朴訥な語り口で綴られていて貴重な歴史的証言になっている。

もう1冊は、中国朝鮮族には著名な作家・金在国氏の『日本人のための「韓国人と中国人」』（三五館刊、原著名『韓国はない』）で、韓国留学体験をベースに同族ならではの手厳しい韓国（人）批判もあって、韓国ではかなり評判になった本である。いま一連の「韓国批判本」が書店に並んでいるが、愛情にあふれた批判という点では、この本に勝るものはないだろう。

ところでほとんどの日本人は、中国に55もの少数民族がいることを知らない。ましてそれぞれの民族が、どのような歴史的経過をたどり、現在どのような暮らしをしているかについては考えが及ばない。残念ながらそれが現実なのである。もっと中国のことを、さらに中国朝鮮族のことを知ってもらうように努力しなければならない。

中国朝鮮族は中国で暮らしているので、統一を課題とする南北朝鮮を等距離で見る立場にいる。しかも同族であるだけに朝鮮（韓）民族の思考方法や気質のことも、感覚的にすぐ分かる。日本を見るときも、朝鮮・韓国というフィルターを通して観察できる立場にいる。東アジアの未来を考えると、中国朝鮮族の存在はきわめて貴重なのである。これまで歴史的・地理的・社会的条件に恵まれず、苦難を経てきた中国朝鮮族だったが、いまやそれらをプラスに転じる絶好の機会が訪れようとしているのだ。

とくに日本に滞在している中国朝鮮族は、語学の才に長けていること、真面目に学業を続けている者、知識的職業に就いている者が多いことなどから「知られざる知識人集団」とも言えるのである。聞くところによると、日本に滞在している中国朝鮮族は約3千名だという。この3千人の知恵と行動力を結集するならば、計り知れない巨大な力量を発揮するのではないだろうか。日本はいま不況の真っ只中なので、外国人が日本で暮らしたり、学業を続けたりするのは容易なことではない。それだけに同族の情報ネットワークを築き上げて、知的資源を分かち合うことの重要性が増しているのである。みなさんのご健闘を心から願っている。

中国経済在世界上的位置

陳 万哲提供（百科知識）

一、1995年中国“全球競爭力”被排為第34位、1997年為第27位

世界經濟論壇与瑞士洛桑國際管理学院合作、共同研究和發表的《全球競爭力報告》、該報告中的“競爭力”是指“一个国家實驗經濟持續高速增長的能力”。1995年美国、新加坡、中国香港名列前3名、中国居第34位。1997年、新加坡、中国香港、美国名列前3名、中国排列为第27位。考核内容为、經濟的開放程度、政府作用、金融市場的發展水平、基礎設施、技術水平、企業管理水平、勞動力、法律制度健全等八大要素、378个指標。

二、“世界經濟競爭力”1997年為第27位

瑞士洛桑國際管理發展研究院1996年出版了長達600頁的《世界競爭力年鑑》、从經濟實力、技術、金融服務、國家貿易、政府政策、管理、基礎設施、教育技能等八个方面、使用230種指標、对46个国家和地区的競爭力進行估量和比較。据此評定、前3位為美国、新加坡、中国香港。中国大陆為第27位。

三、中国的經濟實力指數為世界第五

根拠中国社会科学院世界經濟和政治研究所《采用購買力平價法的中外經濟實力对比研究》科研成果、以購買力平價計算的GDP和人均GDP兩項指標考察、美国為100、以下為日本、德国、法国、中国為27.70、名列第五。

四、中国的“国力”為世界第七

美国学者R. S. 克莱因設計了一个“国力法程”来估量各国的實力、据評定、ソ連為458分居第一、美国為304分。中国為83分居第七。

五、1995年中国的綜合国力為世界第九位

根拠中国社会科学院世界經濟与政治研究所《世界主要国家綜合国力的比較研究》、1995年美国超過四千、名列第一、以下為日本、ソ連、加拿大、法国。中国為2341分、名列第九。

六、中国人均GNP在1997年為世界第91位

人均GNP排行榜是世界銀行編写的《世界發展報告》中發表的、对133个国家和地区（不包括人口少于100万）的人均GNP進行計算、瑞士為第一（40630美元）；日本第二（39640）；中国為第91（620美元）。

七、据“国家財富新標準”、1995年中国居第162位

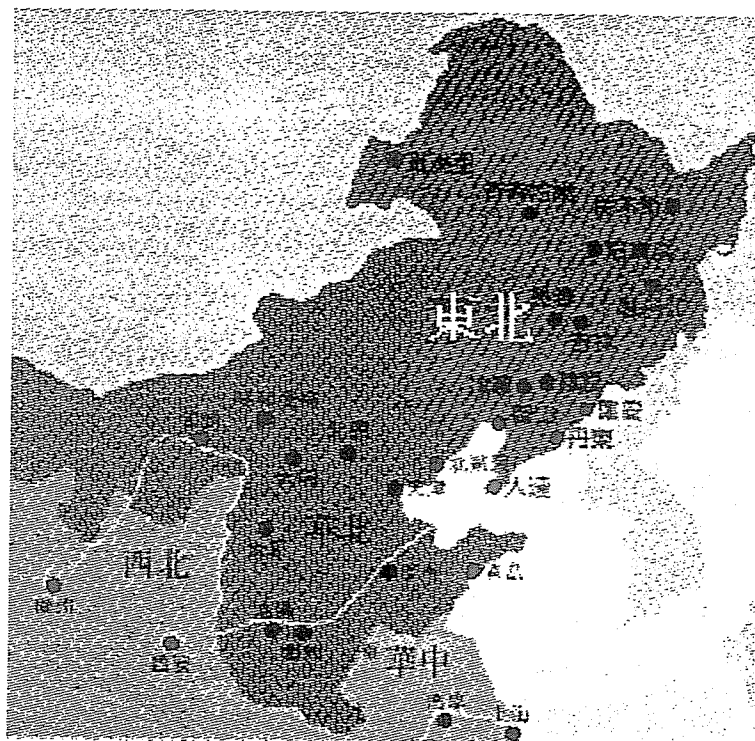
世界銀行于1995年9月17日公布了評価国家財富爭值的新方法。从人力資源、自然資源、生產資產、社会資本四个方面得出各国和地区的實際財富。澳大利亞居第一（83.3万美元）；中国（6600美元）居第162位。

八、中国的人文發展指數為世界第111位

九、中国在1995年“現代化水平”為世界第73位

우리 선조들은 어떻게 중국땅에 정착했는가?

新しい中国朝鮮族の中心 瀋陽市・西塔コリアタウン (上)



中国では190万人もの朝鮮族が暮らしており、そのほとんどは東北3省に集中している。

多い順に、吉林省118万人、黒龍江省45万人、遼寧省23万人だ。

一般的には延辺朝鮮族自治州が有名だが、実は近年最も注目を集めているのは遼寧省の省都・瀋陽だ。

瀋陽で生まれ育った新進作家の金文学氏が、故郷のコリアタウンをレポートする。

作家 金文学 (瀋陽市出身)

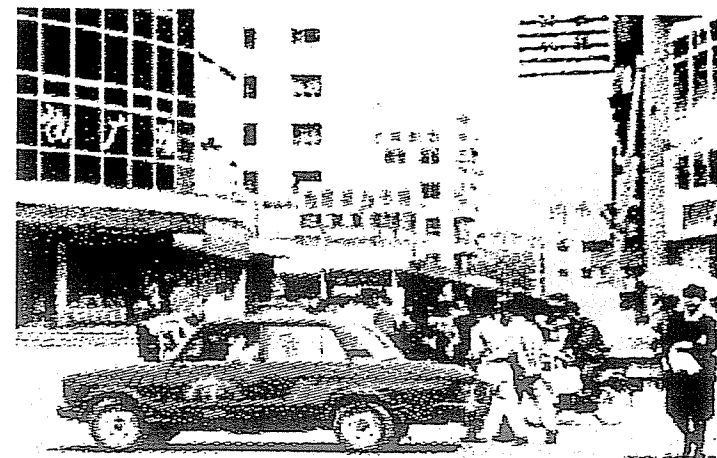
私は来日して数年のあいだに、さまざまな在日同胞(朝鮮人・韓国人)や日本人と出会う機会が多かったが、相手は私が「中国朝鮮族」三世ということを知ると必ずこう聞いた。「あなたは延辺の出身でしょう」「延吉から来られたんですか」と。しかし答は「いいえ」である。「遼寧省の瀋陽出身です」とすると、相手はさらに、「あ、そうですか。瀋陽にも朝鮮族がいるんですね」と、いささか驚いたような顔をして、またいろいろと瀋陽について聞き続ける。私は韓国やドイツ、ロシア、ヨーロッパの同胞たちにも会うたびに、いつも同じ質問をされた。面白いことに、中国朝鮮族について関心をもつ人々にとって、「中国朝鮮族」といえば、吉林省の延辺朝鮮族自治州のことしか知らないようで非常に残念に思う。なぜなら奥地の延辺地域以外にも、黒龍江省、遼寧省、北京、上海にも中国朝鮮族が住みながら、同胞社会を形成しているからである。もちろん、80万人にのぼる朝鮮族の広大な群集地としての延辺が、中国朝鮮族の中心地であることは自他ともにみとめる事実であるが、現在、開放路線下で急浮上したもう一つの中国朝鮮族の経済文化中心地が韓国と最も近い遼東半島にある遼寧省の首府——瀋陽に存在することを忘れてはならない。《Asian Eyes》の編集長で、在日民族作家の高賛侑さんに、ある酒席で瀋陽の朝鮮族について話をしたとき、「これはほとんど知られていないことですね。私も含めて、多くの在日同胞や日本人、海外在住朝鮮人たちは認識を改めるべきですよ」といって、さっそく私に瀋陽の朝鮮族社会について原稿を書いてほしいと依頼してきた。私はその場ですぐ「OK」とこたえた。なぜかといえば、このような中

国朝鮮族についての新しい事情は、在中コリアンに対して関心をもつ世界中の人々にとって新鮮な情報にちがいないと考えたからである。

中国の中の最大のコリアタウン

瀋陽にあるコリアタウンの名称は「西塔(ソタブ)」と呼ばれる。大阪の「鶴橋」を連想させる西塔は、現在中国の大都会の中でも最大、最古のコリアタウンで、中国朝鮮族の歩んできた歴史をそのまま物語る東北部地域民族の象徴そのものである。

至るところで聞き慣れた朝鮮語、美しい朝鮮民謡、ハンガルの看板、そして夜になれば高層ビルの高いところにまぶしく輝くネオンサイン……。西塔に行くと、まるで韓国の明洞の一角に立っているような気がする。そして、それはまた延辺の首都延吉の雰囲気とも、鶴橋の雰囲気ともだいぶ違った印象を受ける。



中国東北地域(旧「満州」)の最大都市であり、重工業基地、経済文化交通の中心の役割を担う瀋陽(旧「奉天」)。現在、人口はすでに600万を越え、上海、北京、天津につづき4番目の大都市である。

西塔は、瀋陽市の繁華街に位置しており、瀋陽、遼寧省の朝鮮族の政治・経済・文化の中心地でもあり、中国の都市の中で最大のコリアタウンを築き上げた。日本や海外の観光客には、満州事変の勃発した地方としての瀋陽、清の発祥地としての瀋陽は知られているが、中国最大のコリアタウンがあることはあまり知られていないのである。

瀋陽市の人口600万人のうちで、朝鮮族の人数は10万人、その中で西塔には2万人くらいの朝鮮族が暮らしている。流動人口を加えれば、3万人以上になるようである。

西塔には、民族の幼稚園、保育園から、小学校・中学校、高等学校、職業専門学校にいたる教育施設が整っており、同市内には、海外と国内有志の支援による民族大学——渤海大学がすでに創立4年目を迎えている。

この大学は、延辺大学や中央民族大学と違って、100%の民族教授と民族学生というのが特徴であり、省内外の朝鮮族の受験生の人気大学でもある。韓国企業や外資系企業などに強い実務教育の専攻が多いため、朝鮮族の就職に役立つ点でも評価を受けている。

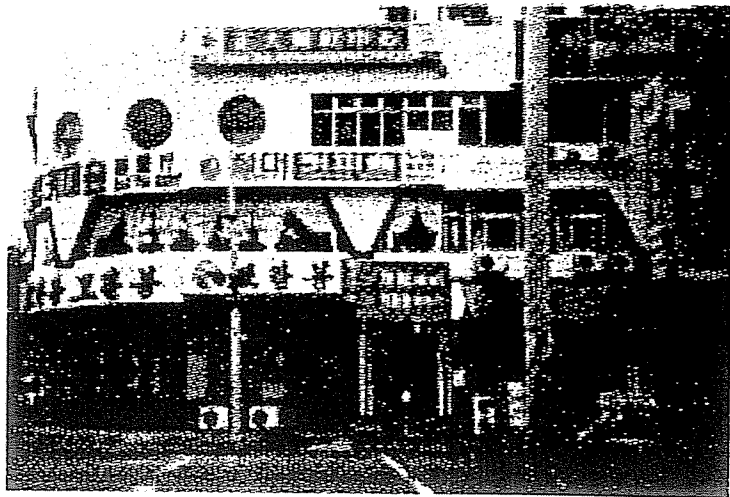
朝鮮族の婚礼センター、書店、文化館など日常生活の施設はもちろんのこと、老人会、病院、教会もきちんと具備されている。西塔キリスト教会といえば、中国朝鮮族の由緒深い教会であり、延辺以外の朝鮮族教会の代表格にあたる。

そして、町の役所、派出所、銀行、郵便局など国立機関・政府関係の職場にも朝鮮族の役人たちがいるから、西塔の朝鮮族は政治・文化・日常生活において、言葉はもちろんさまざまな面で何の支障もなく自由を満喫している。

最近では、朝鮮族が経営するサービス産業が雨後の筍のごとく発展し、タウンの中は朝鮮語看板の天地である。現在、朝鮮族が経営する大型ホテルが2軒、大型デパートが1軒(計500人の従業員)、中小型商店が10カ所、美容院、胡麻油坊等、個人所有の店が50カ所以上、飲食業態100個、大型美食娯楽業態が30カ所(そのうち韓国人直営10カ所)、個人旅館30軒、貿易会社と事務所が20個以上ある。

また、タウン内には朝鮮族飲食街、韓国衣類街、総合市場街の3つの市場があって、西塔地区市場経済の対外窓口となっている。ことに韓国製品一色の総合市場は市内の人気市場に浮上し、日当交易額が100万人民币元(約1500万円)を越えるようである。

崩れなかった民族の聖塔



「西塔」は実在した塔の名称である。その昔、西塔地域に西塔があったので、町の名前が「西塔」になった。古い時代の瀋陽は、地震など自然災害の少ない町として「宝地」とされ、その「宝地」の安全を永久に守るため、清の時代に市内の東・西・南・北の四方に塔が建てられた。それが現在の東塔、西塔、南塔、北塔である。しかし西塔は文化革命の頃に破壊され、いまはこの世からなくなってしまった。

朝鮮人の西塔への移住は19世紀の70～80年代、歴史の記録によれば、1882年と1887年、朝鮮人ソサンリユン、白興俊がすでに西塔地域で朝鮮文の『聖經』を出版したとされる。

19世紀中半から多くの朝鮮人が瀋陽近くの渾河、遼河の一帯で稲作農業にたずさわりながら、西塔地域を集いの場として利用した。したがって西塔は、ごく自然に朝鮮人の政治・経済・文化活動のセンターになったのである。

また、記録によれば、1900年5月、朝鮮平安北道寧城郡の農夫安奉泰という人が中国の商人王氏について西塔で商売をはじめ、1901年には、朝鮮基督教会の白牧師が西塔で布教活動をはじめた。そのときは、すでに多くの朝鮮人が木造の家を建て、手工業と雑貨の商売で西塔に大量に移住する。

そして、1911年に鴨緑江鉄橋が敷設され、安泰（安東～奉天）線の開通にともない、日帝の支配から逃れるためさらに大量の朝鮮人が西塔に移住し、西塔は次第に朝鮮人の地域になった。その頃から朝鮮人は主に手工業、商業に従事しながら軍閥と日帝の政治・経済的抑圧に反抗する先駆者的役割を果たしてきた。

1928年1月9日、東北地域の23団体の代表40人が西塔朝鮮人キリスト教会堂にあつまり、「帰化入籍」の問題について議論した。そして、1940年代、奉天劇場（民族映画館）で朝鮮人たちが愛国・反侵略の歌をうたい、進歩的演劇を演じた。その当時、西塔の青年たちが「批判」という雑誌を発刊したという史料からみても、西塔は古くから東北へ進出した朝鮮人の政治・経済・文化の中心地の一つだったことは間違いない。

やがて1945年「八・一五」光復（祖国解放）を迎え、大部分の有産者たちが祖国へ帰り、西塔は一時朝鮮人から遠ざかった。だが1948年、瀋陽市の解放にともない、中国の民族政策のもとで国内の各地から朝鮮人が雲集しはじめ、政府も多くの民族資本を国営化し、朝鮮人に独立的な経営をさせるような優待政策を実施した。こうして西塔は、中国でコリアタウンとして広く知られるようになったのである。（つづく）

우리민족 문화수준 하강

우리나라 제3차전국인구조사에 따르면 1982년 조선족사회에서 대학문화수준 도달자가 1000분의 20명으로서 각각 한족의 3.33배, 기타 소수민족의 5배를 초과했고 고중과 초중문화수준 도달자는 전국 한족의 2.77배, 기타 소수민족의 1.72배를 초과하였다. 하여 조선족은 전국적으로 한족을 포함한 56개 민족중에서 교육문화수준이 제1위에 놓이게 되었고 아울러 가장 우수한 민족으로 평가받게 되었다.

하지만 우리나라 제4차전국인구조사에 따르면 1990년 전국 56개 민족가운데 조선족의 대학문화수준도달자 비율이 1982년의 제1위로부터 제5위로 떨어졌다. (길림신문)

歴・史・を・知・ろ・う

(历史小知识)

间岛日本领事馆

间岛是历史的名称,是指现在的吉林省延边朝鲜族自治州的一部分地区。从很早开始,在间岛已有大量的朝鲜人流入定居。据不完全统计,仅在1909年,在间岛的总人口130,230人中(中国人为31,900人,日本人为330人)朝鲜人就有98,000人,占其绝大多数。

围绕间岛朝鲜人的管辖权问题,从19世纪末起,清韩两国政府曾经进行了多次交涉。但是由于间岛领土权问题所夹,双方各持己见,始终未能得到解决。1905年11月,日本强迫韩国政府签定所谓《日韩协约》,夺取了韩国的外交权,同时把居住海外朝鲜人的管辖保护权也握于一手。以此为据,从1908年底起,日本正式和清政府开始了交涉,以解决间岛的领土所属权以及对朝鲜人的管辖权问题。

1909年9月,清日两国正式签定了《间岛协约》。其中,在第1条规定了以图们江为中国和韩国两国的国境线,并在第2条规定在龙井村(现在的龙井市)、局子街(现在的延吉市)、头道沟、百草沟四个地方设立日本总领事馆和分馆。依据协约,同年11月2日,日本在龙井村正式设立总领事馆,3日在局子街、9日在头道沟分别成立总领事馆分馆。1910年3月1日,以当地居住朝鲜人甚少等为由,在百草沟先设立了总领事馆出張所,到1922年10月3日才改称为分馆。

领事馆内设有领事,副领事,书记,通译等外,还配置警视,警部,警部补,巡警等警官,分别部署在总领事馆警察署以及各分馆警察署分署。警察来源其一部分来自于朝鲜总督府的宪兵,另一部分是从日本国内以及住满洲的日本关东军中所采用。其人数初期为61名,可是到1918年却增加到约687名,满洲事变前甚至达到900名以上。按当时日本外务省的解释,这些警察官称之为司法警察,可实际上却是作为一种宪兵、行政警察、司法警察等性质兼于一身的半军事力量而存在。

该领事馆作为日本的在外机构,隶属于外务省,并位于中朝俄三国边界,为执行日本的朝鲜、间岛以及满洲政策,起到了积极的推进作用。特别是以持有领事裁判权为由,对间岛朝鲜人进行所谓的保护、管辖,并对抗日团体以及武装采取了无情的镇压政策。领事裁判,是以被告主义为原则,在间岛主要是针对朝鲜人。领事官握有预审权,对各种刑事案件进行预审,而后将被告(朝鲜人)移送到朝鲜总督府京城等地方法院,适用日本法律和总督府制令进行判决。朝鲜总督府地方法院直接管辖间岛领事裁判,这是间岛领事裁判权的特征之一。

以后,随着伪满洲国的成立,日本在中国东北取得了独占的地位。1937年起,日本从殖民利益出发,宣布在满洲撤消所谓的治外法权,并调整在各地的领事馆。因此,在间岛的总领事馆各分馆也被涉及,如头道沟分馆、百草沟分馆、图们分馆(1934年设立)先后取消,被警察机构所代替。但是,由于间岛的行政、司法等管辖权隶属于由日本操纵的伪满洲国,因此在间岛的约548,717名(1938年为止的统计)朝鲜人依然未能摆脱出日本的管辖及统治支配。

(桦影供稿)

마냥 그리운 그 마을
김광림

세상이 하도 너른데
사느라면 어디도 고향이라는데
마냥 그리운 그 마을

다같은 산
다같은 물
다같은 흙

그래도
그산이 정답지요
그강은 잔잔해요
그흙도 부드러워요.

그리웬 그 마을로
꿈에
전 한번 갔어요.

오붓한 초가집
귀익은 발자취
落淚하시면서
어머님이 달려나오셨어요.

아버님! 어머니!
형님! 누님!
제가 돌아왔습니다
제가 돌아왔습니다.

얼마나 그리웠던가
얼마나 보고뵈었던가
저는 한없이 울었습니다.
울고나니 한없이 기뻐합니다.

그리고
눈익은
산으로, 강으로, 들로
달려갔습니다.

아들한 버들 피리부니
제 童年의 소리였습니다.
해맑은 강물에 세수하니
제 童顔이 보였습니다.
보드러운 모래흙 만지니
제 童心이 다가왔습니다.

허나
한참 꿈 깨니
그 마을은 멀리멀리도 사라졌습니다.

이제야 찾아봐도
부모님은 저 세상으로 영영 가셨습니다
형제들은 살길 찾아 사처로 떠났습니다.
고향집? 그집도 이제는
빈터만 남았습니다.

아아! 그래도 못 잊은 그 마을

왜선가요?
그곳은
때문지 않은 제 童心이 묻혀 있습니다.
자애로운 부모님의 미소가 어려있습니다.
시간 모르고도 사는 자유로운 삶이 남아 있습니다.

삼나라 타향살이 10년
애타게 얻은
학위, 돈, 명예
이 모든것 이제 훨훨 다 버리고

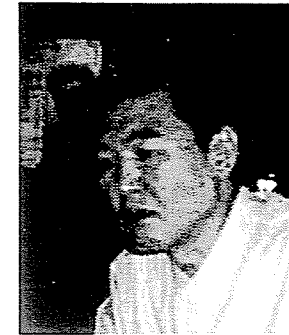
그리고 달려가
지치고 마른 마음에
색동옷 곱게 입혀
그저 웃으며 살까.

세상이 하도 너른데
사느라면 어디도 고향이라는데
마냥 그리운 그 마을.

金芝河 講演会

1998年12月4日(金)18:30~

川崎市教育文化会館大ホール



金芝河(キム・ジハ)

1941年 木浦生まれ。

1966年 ソウル大学文理部美学科卒業。

1968年 詩人誌に発表した「ソウルの道」等の詩をトエ文壇に発表。

1970年代には「黄色の道」のような民衆叙事詩と、「五賊」に代表される権力層の不正をパンソリのリズムにのせて痛烈に批判した長詩を発表。

1980年代に入って、「生命」に対する畏敬の念を醸い、またそれを実践面で反映させるべきだという自らの考えを表現するようになる。

1984年に出版されたエッセイは生命思想を開く最初の書として評価されている。

その後も環境および生態系問題、自治体問題、マルチメディア時代の機械と技術の問題、核問題、農業問題、21世紀文明の転換問題などを深い洞察力で分析し、対応策を提示している。

律呂と新人間主義

こんにちは。

金芝河でございます。

覚えていらっしゃる方も多いかと存じますが、私と日本の皆さまとの縁の始まりは、今からずいぶん昔の30年前のことです。30年前の1970年5月、「五賊」という詩を発表し、反共法違反で監獄に入れられてからでした。当時、日本の中で相当世論が起こったことを記憶しています。

その後私は、朴正熙軍事独裁に対する批判活動と抵抗運動を続けていたことから、度重なる投獄と監視、弾圧のもとに置かれました。一時は死刑も宣告されました。また、6年間をずっと独房で刑期を過ごしたこともあります。その期間中、日本の中では私に対する支援と救命、連帯運動が粘り強く続けられました。

1980年秋に出獄してから、すぐに日本を訪れ、感謝のご挨拶を申し述べたいと思っておりましたが、当時の時局においてはままならぬことでした。その後、復権され来日が可能になったときには治療の難しい重い病に犯され、最近にいたるまでの10年以上も、礼を欠いたままの状態を続けざるを得ませんでした。

今は健康も多少回復し、30年後の来日が実現したことで、遅れ馳せながら皆さまにご挨拶できるようになりましたことを感慨深く存じます。

本当にありがとうございました。

心の底から湧き出てくる深い感謝のお礼を申し上げます。

皆さまは或いは今でも、私を昔の20代の青年抵抗詩人、金芝河としてばかり記憶しておられるのかもしれませんが。しかし、この間、歳月は流れる水のごとく流れました。世の中は大きく変わり、私も大きく変わりました。私の年もすでに還暦が目の前に近づいています。

20数年前、私の思想は監獄の中で一度大きく変わりました。そのころは、単線的な社会変革思想や民衆神学だけでは解決できない、複雑で総体的な環境破壊の危機が、人間と世界と全地球を襲い始めた時期であり、私個人としまでも壁面症と呼ばれる深刻な症状に苦しみ、新しい活路を探し求めるしかない切羽詰まった時でした。

壁面症というのは独房に長い間幽閉された人には時折起る症状なのですが、天井が覆い被さり壁が近づいてくるように感じて、体中が締め付けられ、胸が苦しくなり、叫び声をあげたり身悶してしまう症状です。当時私が閉じ込められた監房の壁の上にはテレビのモニターカメラが設置しており、私の行動全てをつぶさに観察し、少しでも辛そうな気配を見れば、刑務所の所長やKCIAの幹部たちがやってきて投降するよう勧めたものでした。

実存的な危機でした。しきりに折ってみても甲斐なく、恐ろしい決断をしてみてもどうしようもありませんでした。監視の目を盗んで指をかなりきつく噛んでもみたりもしましたが、根本

的な解決策を探さねばならない状況でした。

それは、春のことでした。鉄格子の間から真っ白なタンポポの種がいっぱい飛んできて、監房の天井でヒラヒラと舞っているのが見え、窓格子とセメントの台の間のつなぎの穴から育ったケラジュナムという真っ青な草の葉が、改めて目の前いっぱい広がったと感じた途端、訳もなく涙が込み上げ、一日中泣きつづけました。その時、私の心とすべての天地に響き渡った言葉があるのですが、それがすなわち『生命』でした。無所不在! 壁も塀も鉄格子も閉じ込めることのできない無所不在なる生命の理に目覚めえさするならば、私はこの状況を根本的に克服できるのでした。さらに、この時代と世界の複雑な懸案について、総合的な解答を求めることもできるだろうと考えました。

百日間の厳しい座禅の修行に入り、弛みない読書と探求を通して、ついには東学の呪文、「侍天主」を中心に、仏教と老荘、西洋の生態主義思想と新科学を統合する新しい生命思想を構想するに至りました。

出獄後、第5共和国統治(全斗煥政権)下で生命思想、生命運動を提案し、実践しようとする私に浴びせられたのは、変節者、背信者、運動の戦列を混乱させる者、新興宗教教主という数限りの非難と中傷でした。階級革命や軍事独裁打倒で忙しい時に、生命や環境を云々するなんてとんでもないということでした。気持ちはいつも憂鬱で夜も昼もなく酒をおおる日々が続く、ついには重い病にまでかかってしまいました。

そのことはおそらく、当時、一つのスキャンダルとして日本にまで伝えられたと承知しています。しかし、そのような中でも生命運動を粘り強く展開し、生命思想を伝えて、20年近くになる今日、『生命』という一つの言葉は、ついにこの時代におけるすべての病理的現象と根本的に向き合うための努力を一つに結びつけ包括する、要となりました。社会的な生命軽視、生命破壊と地球生態系の汚染・毀損という破壊的な事態が深刻になればなるほど、その影響力が増幅される中心的流れの一つとして位置付けられるようになりました。有機農運動、消費者共同体運動、都市と農村間の産直運動および広範囲な環境運動と新文明運動エコ・フェミニズムの核心的命題に発展し、文学や芸術、神学の一角においても重要な流れとしての位置を占めつつあります。さらに韓国生命運動団体と日本の生活クラブ、生協などが連帯する東アジア生命運動の芽も現れはじめてのです。そのことと時を同じくして、私は数年前、数十億の人口が密集しているこの敏感な東アジア全域から、まず韓・日が連帯し、一切の生命破壊、生態系汚染と搾取、軍備競争と核武器を全面追放することで、人間と民族と全生命が共生共栄できる新しい生命の場を作ろうという趣旨の「東アジア生命共同体運動」を提案するに至りました。

しかし、ここ数年の間、私はもう一つの難関にぶち当たりました。結局、このすべての思想と運動は、それを実現し実践する主体としての人間が変わらねば成功させることはできないという結論に達したのです。誰もが知っているこの明白な結論は、

しかし、事実として真に意味深長なものであります。

本格的な生命運動—荒唐と暴力と破壊、汚染や疾病から人間と動植物、そして無機物を、まずもろともに、早急に救出・回生させ、さらにその心を感化・変化させ、相生・共生するようにし、人類的・地球的・宇宙的平和を完成する世界統一の新時代と新しい地球文明を創造する本格的な生命運動—は、自然と人間を対立的な存在と見なす西洋的ヒューマニズムとその人間観によって教育された今の人々には期待することができませんでした。現代は青年の時代です。青年たちの中から、このような宇宙的「新人間」が現れるようにするためには、新しい教育文化とともに人間に対する新しい理解がまず求められるのです。

人間は、単なる物質的・肉体的存在ではありませんし、自然的・感覚的存在に限られたものでもありません。同じく、情緒的であるとか、文化的であるとか、社会的・知的・理性的・科学的性質だけの存在でもありません。

この二つの側面をともに備えながら、同時に霊的であり、神的存在であり、無意識的存在であり、超自然的でありながら宇宙的な、そのような三極を一身に統一している、深く、広い、大きな生なのです。そのため、神に対してはもちろん、人間に対する尊敬や動植物及び無機物などの、宇宙万物に対する愛とは、大きな自我、深い自己本性の表現に過ぎません。つまり自分自身に対する愛に他ならないのです。これは現実的には正に、宇宙の核と存在の核が一致することで可能ですし、天地万物は私の心、天地の気運が私の気運ということに目覚めた時、初めて可能になります。

宇宙史は、物質—生命—心の順に進化してきており、これは人類史の中にもそのまま圧縮され、また、一人の人間史の中にも直接凝縮した形で現れます。私たちの体の中には、生命の自己調節センターである、下・中・上の「三丹田」があり、それに対応して、「精充・氣壯・神明」という統一的身心修練法が現代韓国の丹学の中にもあります。このような新しい人間観に立脚して人間の三極—元的な本性を生かすためにも、人間のある一面だけを強調する古いヒューマニズム教育や文化ではなく、物質的・身体的な労働や鍛錬と、情緒的・知的・科学的学习、霊的・宇宙的な深い瞑想を統合するニューヒューマニズム、新人間主義教育・文化が求められているのです。

現代の危機は、生命の危機ばかりではありません。世界金融資本主義と市場経済の一大危機であり、いたるところで人間の霊性は枯渇し、暴力・麻薬・セックス・精神的疾患と怪疾が登場し、終わりのなき宗教紛争と民族戦争、国家間の甚だしい貧富格差と集団餓死が続出、気象異常によって類例なき洪水や日照り、津波や地震が襲い、海水面は上昇し、季節の節目もずれてきています。一言で、天・地・人、三界の大混乱、すなわち「後天開闢」です。

このような大混乱、大変動に対応して、天・地・人の三極を一身の中に統一し、自らが天地公事を執行するほどの深く広い天地公共心を持ち、また神霊なる知恵と科学的知識と豊かな情緒、力と信念、勇気を合わせ持った『天地人』、すなわち「新人間」が出現することで、新文明、新天地が開かれることを待つ世界の人の願いが、日に日に高まっています。

私は最近、その「新人間」の根源的な理を、古朝鮮時代以来、我が民族思想の核心となっている『ハン』思想と、その経典である『天符経』から発見しました。『天符経』は根源の一つである『ハン』が三極に分かれ、天・地・人として展開しつつも、根源としての『ハン』が減じたり変化することなく、最終的には人間の本性と一致し、太陽のように高く昇って明るくなり、「人の中で天地が一つに統一（人中天地一）」される宇宙的新人間の出現を通して宇宙史が完成されると語っています。

私は、私の存在と民族のルーツである『ハン』に帰依し、一元三極の原理である『天符経』に帰依し、また、『ハン』と『天符経』の人間主体的表現である天地人の『風流道』、その現代的復活である丹学がすでに帰依しました。そうして一元三極の修練法に従って修練した結果、10数年ぶりに多少なりとも健康を取り戻すことができ、今日、このように皆さんにお会いすることができました。

私の思想は更にもう一度大きく変わったわけです。しかし、厳密に言うならば変わったのではなく私の根源に帰ったのであって、青年期の夢であった物質的豊かさと貧富平等の福祉社会建設、民主的変革の思想、そして壮年期における社会と宇宙生命の回生および霊性回復の思想が、いま民族主体的、開放的かつ全人類的で全宇宙的な檀君思想の中で完成されつつあるのだと言えるでしょう。現在の私の修練と学習は、まず私自身が「新人間」として生まれ変わるためのものですが、未来の青年たちの教育・文化のための新人間主義完成に一助となることを願うてのことでもあります。

またできるものならば、民族統一の大前提である民族主体的で世界開放的な統一思想の創造に寄与したいと思っています。さらに日本の皆さまと協力し、「新人間」による東アジア地域文化圏を開き創ることで、人類全体の新しい文化的統一のための肥やしとなることを希望するものでございます。

私は詩人であり芸術家であります。

世界は今、あるべき姿の新しい政治、新しい経済、新しい科学、そして新しい文化と道徳に先立ち、それらを創造可能にする新しい音楽、新しい詩と新しい芸術を待ち望んでいます。すなわち新しい『律呂声』を待っています。

「律呂」とは、調和のとれた宇宙の秩序と変化を意味する言葉であり、同時にその秩序と変化を実現する音楽とリズムと詩などを表します。

いにしえより、東北アジアにおいては、音楽と詩と芸術が病めば、国家と天下の没落・衰退を予感しました。そのような時には、宇宙の変化に新しく注目しながら、人間心靈の奥に入って、変化を表現する新しい音楽、新しい詩、新しい芸術を得ることを通して、人間と万物の心を新しく感化・変化させ、それに基づく新しい社会的礼を立て、その礼を尺度に政治経済を含むおよびすべての制度を根本的に革破したのです。このような律呂の道を朝鮮民族は昔から風流道と呼んできました。

人心や社会の大混乱と宇宙の大変動にぶち当たった今日、私たちが襲っているのは、極度に病み、墮落・解体された『慢』の音楽と詩と芸術です。今、新しい時代の創造に向けて私たちが共に実践すべき新しい「律呂」、新しい風流の創造は、どこから始めなければならないのでしょうか。

最近の韓国の文化界は、日本の大衆文化の上陸をめぐる非常事態に入っています。

国家間の文化交流というのは自然なことであり、特に日本文化の高い技術水準には当然学ぶべき点がありますが、問題はその内容と質です。一言でそれは、先に指摘したところの『慢』であります。韓国人はもちろん、日本人自らも深く省察することが求められていると思われます。

私はすでに今年の秋、ソウルで律呂学会を組織し、セミナーなどをはじめ新しい律呂運動、新しい風流運動に取り組みはじめました。

日本の皆さまもこの運動に連帯されませんか。ともに連帯する中で、ほんとうに人間と万物の心を奥深いところから感化・変化させ得る新しい律呂、新しい風流を起こし、新人間時代を開いて行こうではありませんか。

韓日の間には旧怨がたくさんあります。東アジア生命共同体という共同目標とその具体的実現のためにも、これから律呂と新人間運動を新しく、力強く連帯推進していく過程で、古い怨念と誤謬は自然と許され清算されるものだ信じます。特に、在日同胞の皆さまはこの運動の連帯推進過程において、北朝鮮側であれ、韓国側であれ、第三の道の側であれ、積極的に参与し、また新しい時代を切り開くこの創造の道で、自己のアイデンティティの発見と民族統一、韓日共生と世界協和の新しい生の営みを求められんことを切に願っております。

もう私の話を終えなければならない時間になりました。

最後に重ねて述べさせていただきたいことがあります。過去、皆さまが私に示してくださった友情と連帯に深く感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございます。

ありがとうございます。

◎『天池人文』が我々中国朝鮮族の新文化の発祥地となることをお願いします。自立、自山、希望のマダン（広場）を作って行くことを祈願いたします。 李東哲（遼寧）

◎朝鮮族の女性達が現在どんな考え方をもち、どんなことに対して関心を持っているかに対しても、天池倶楽部の会員達がちょっと気を配ってほしいです。例えば、家族を持っている人達は自分の家族を家にほったらかしないで、積極的にこの会に参加してほしいのです。今現在の雰囲気だけでなく、気が楽で人との触れ合いができる場所を作ってほしいです。

呉、朴、鄭三姉妹

◎現在、東京の住都公団では外国人たちにも比較的安い価格のマンションを貸しています。二家族で組を作って入居する場合は家賃が相当割引されます。JR西船橋駅と地下鉄東西線南行徳駅近所では住都公団のマンションに入居した朝鮮族が急増しており、そこに中国コリアンタウンが形成されそうな盛況さえ見られています。住都公団のマンションに入居されたい方は住都公団または天池倶楽部の理事会に問い合わせして下さい。

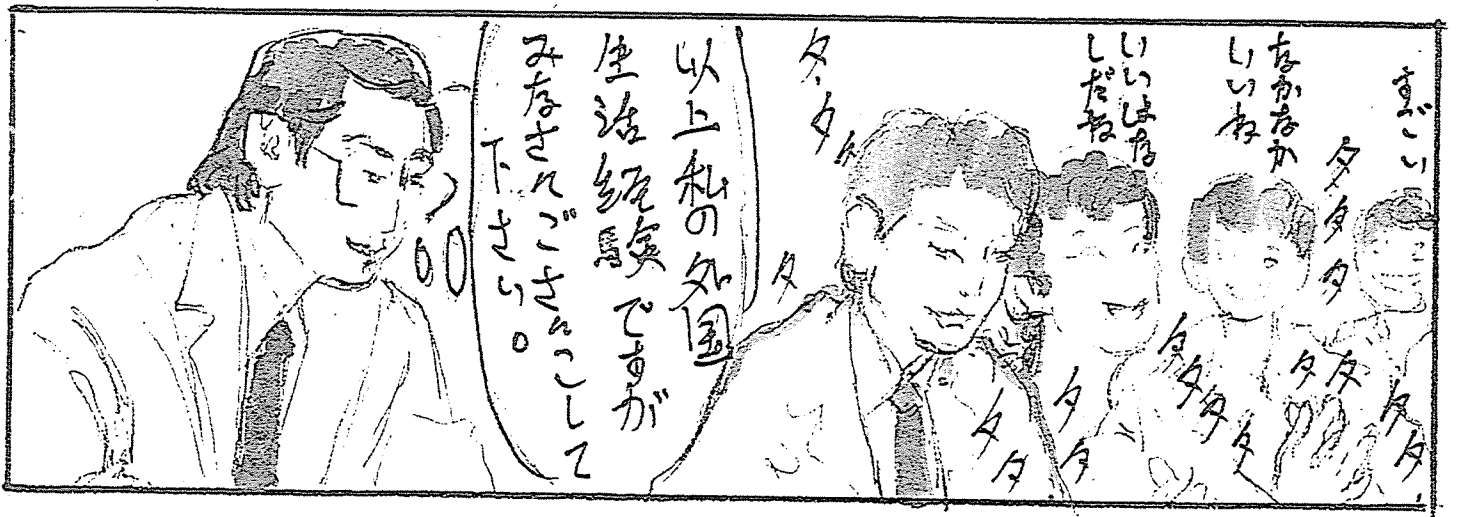
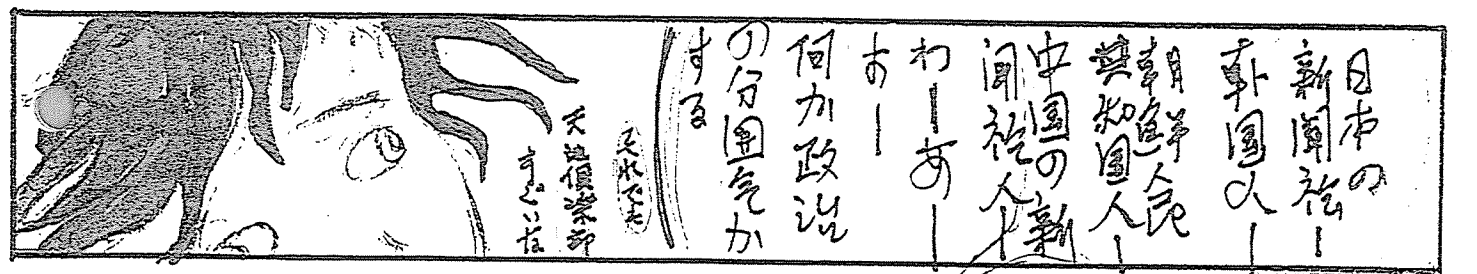
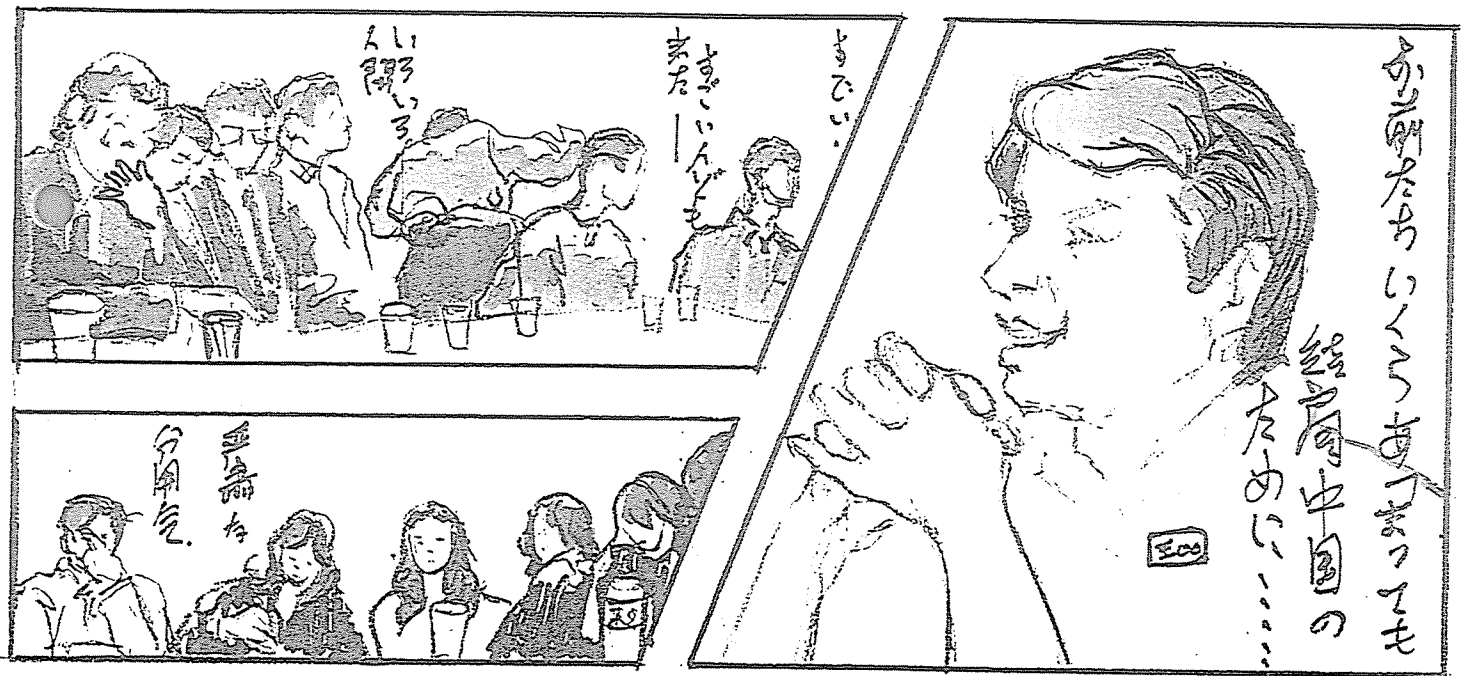
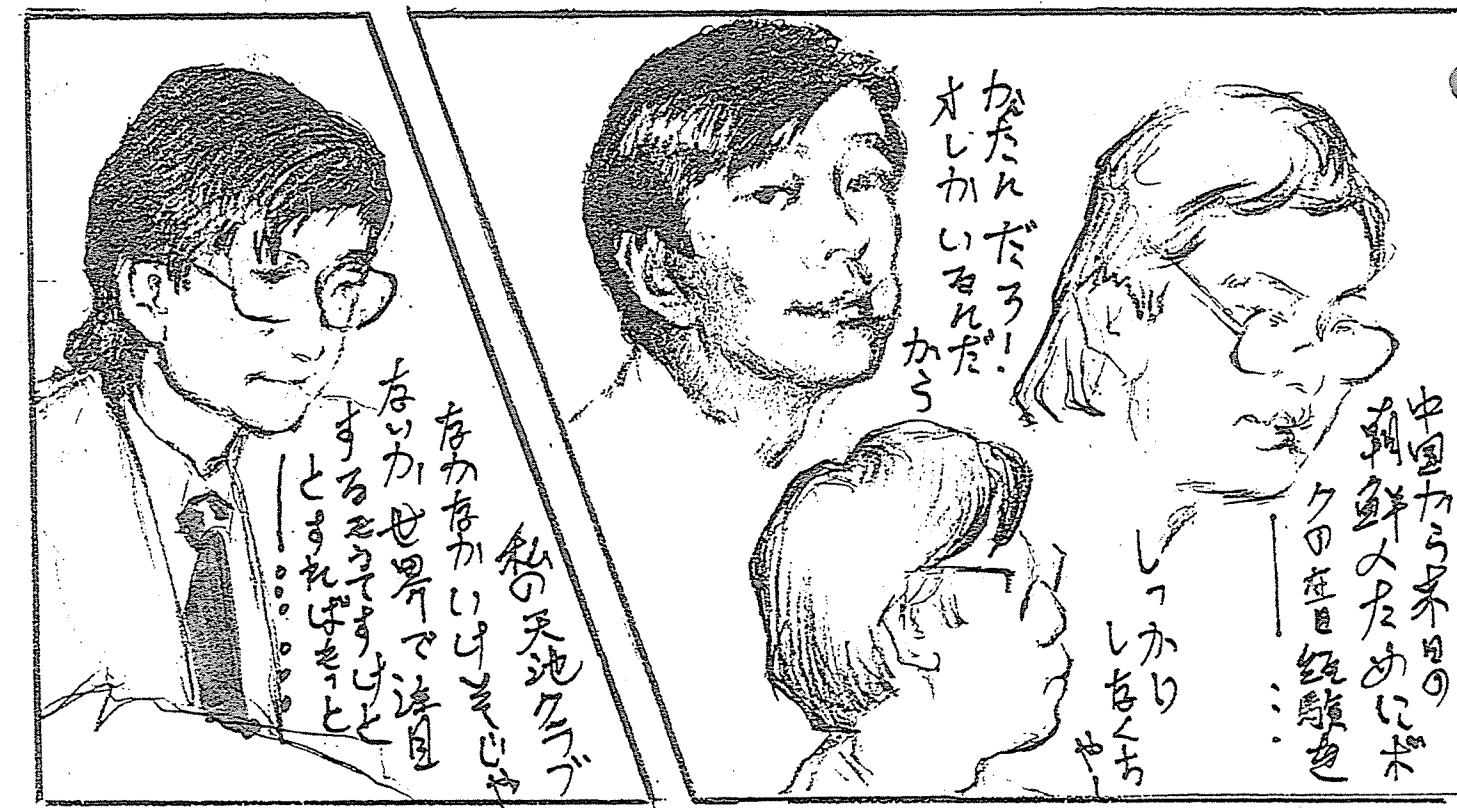
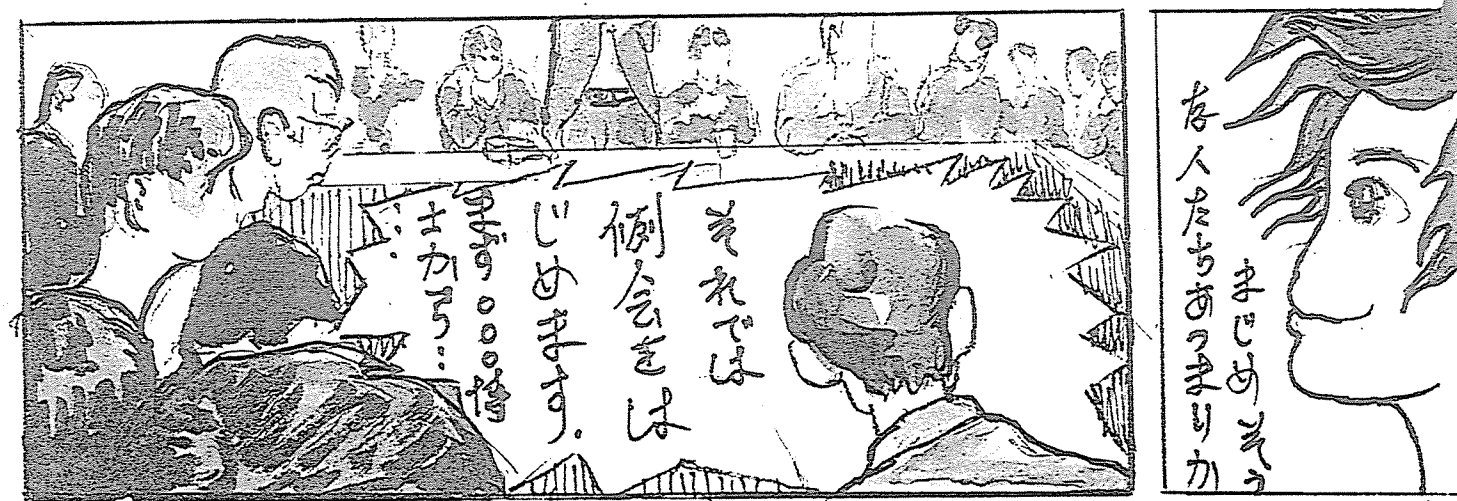
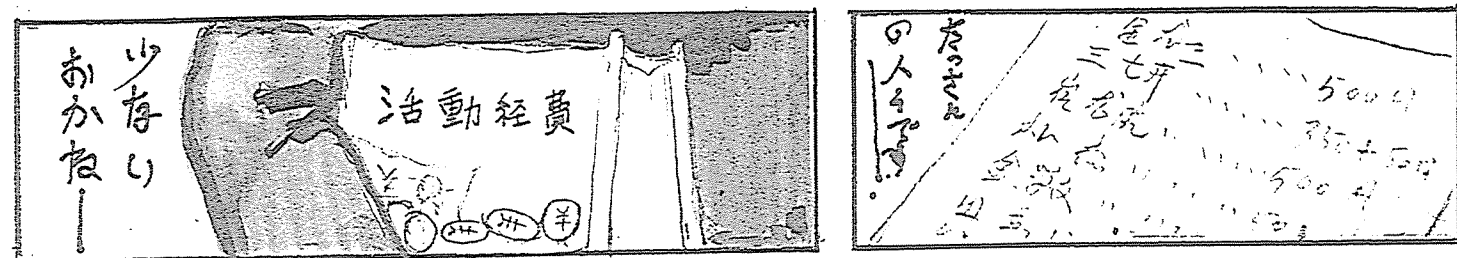
金光林

日本生活面白い失敗談

◎日本に来たばかりのある紳士が訪ねて来た友人を招待しようとしてしました。「酒は中国から持参した60度の白酒でいいや。それにちょっとつまみでも買ってこよう」。紳士はさっそくスーパーへ行ってつまみを探しました。「なんだ。日本にも犬肉があったのか、それにこんなにやすいの?」。棚には犬の写真が貼ってある缶詰が並んでいました。紳士はその缶詰を一抱えも買ってきて、友人に得意げに話しました。「おい、君今日は白酒に犬肉をたっぷり食おうや」。「やあ、お前それは犬肉の缶詰じゃなくて犬に食わせる缶詰だぞ」。「何?、犬も缶詰を食うの、日本の犬は贅沢だな」。それでも紳士はちょっとした恥を聞いたもんですね。

◎ある来日したばかりの、プライドの高い教授の夫人が一人で留守番をしていたら、部屋がぐらっと揺れ出しました。「あっ、地震だ」。彼女はすばやく食卓の下に潜り込みました。地震の時にはそういう所に潜り込んで頭を抱え込むのが一番安全だと聞いたからです。地震はすぐ収まりました。夕方になって教授が家に戻ったら、夫人が食卓の下で頭を抱え込んだまま怯えていました。「何をしているの」。「地震だよ。怖くて怖くて堪らないわ」。「過剰反応だな」。

笑笑



日・中・韓語学研究所語学教室
受・講・生・募・集

Ⅰ. 十日特別コース（平成11年1月～3月まで12回）

コース名	授業曜日・時間	定員	担当講師	使用教材
やさしい中国語会話	土曜10:00～11:50	8名	李東哲	プリント使用
中国語総合入門	土曜13:00～14:50	8名	李東哲	12回で学ぶ中国語
英会話中級	土曜15:10～17:00	8名	未定	その都度指示
比較しながら学ぶ 中・韓2カ国語入門	日曜10:00～11:50	8名	李東哲	プリント使用
児童中国語	日曜13:00～14:30	9名	李東哲	未定
実践コンピュータ講座	日曜15:00～17:00	8名	金炳哲	特に無し

二、授業料

- a. 「やさしい中国語会話」「中国語総合入門」は月9,000円。
b. 「比較しながら学ぶ中・日2カ国語入門」は月12,000円。
c. 「児童中国語」「実践コンピュータ講座」は主に日本在住の中国朝鮮族対象なので月6,000円。但し、受講者数が4人以下の場合は月8,000円。

*授業料はできるだけ1学期分一括納入してください。

@@

- 土日特別コース以外に、平日夜間（7:00～9:00）の中国語・韓国語の講座もあります。中国語・韓国語を勉強したい友人や知り合いの人がいたら紹介して下さい。謝礼として1万円差し上げます。なお、講座に対するいい意見やアイデアなどありましたら誤遠慮なく言って下さい。

- 交通――①銀座線・虎ノ門駅 西新橋1丁目・虎ノ門1丁目出口から徒歩3分
②都営三田線・内幸町駅から徒歩5分
③JR線・銀座線・新橋駅 烏森口から徒歩8分

●お問い合わせ：〒105-0003東京都港区西新橋2-13-16 多田ビル4F-A
TEL/FAX 03-3592-9005 HP:040-208-6445

日・中・韓語学研究所・延辺大学日本駐在総合事務所 李東哲（吉林）

关于建立在日中国朝鲜族信息库

【动机】中国改革开放的进一步深化,促使越来越多的中国朝鲜族向海外进军,由于历史的特殊原因其大部分都集中在日本。而冷战的结束,世界经济的世界化,使国家之间的距离也越来越小,世界也就需要越来越多的国际化的人才。在这一方面中国朝鲜族具有得天独厚的条件,特别是在日本的朝鲜族基本上都能讲中,韩(朝),日三国语音,有的还能讲英语,还具备各自的专业知识,而且我们与中,韩(朝),日三国在血缘或地缘上具有密切而不可分割的关系。时代在等着我们去发挥和贡献。为了更好地发挥自己的长处,我们之间的各种交流是必不可少的。为此,天池俱乐部(代表:朴鹤)拟建立在日中国朝鲜族信息库。

【目的】为促进在日中国朝鲜族之间的交流及发展。

【对象】本信息库基本上以在日中国朝鲜族为对象。

【运营】本信息库将由天池俱乐部理事会指定人员进行具体运营管理。

【登記】本信息库的登記,將采取自願的方法,儲藏個人信息及其他信息。

【服务】在经本人同意的前提下，公开和提供有关个人信息及其他信息。

【负责】金万寿 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 6-2-34 Tハイツ 62C-102

TEL : 0422-79-3750 E-mail: jinws@ibm.net

天池俱乐部理事会理事

天池俱乐部理事会准备把本信息库作为一个促进我们在日中国朝鲜族之间交流及发展的具体项目。本信息库的建立及运营的成败固然于我们理事会的运营能力有关,更重要的是大家的关心和协助。希望大家踊跃参加及利用。

---切取り

在日中国朝鮮族データ・バンク申込書

年 月 日

姓 名			1. 男	生年月日		年 月 日 生			写 真
			2. 女	出生地		国籍			
住 所	〒								
	電話				FAX				
	E-mail								
勤 務 先									
	職務				電話			FAX	
最終学歴		(年 月 卒業)							
所持資格		1. 2. 3. 4.							
特 技					趣 味				
経歴及び自己PR									

數字로 보는 아세아경제/数字で見るアジア経済

4. 韓国 (9.9万km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	44.20	44.64	45.10	45.54	45.99			
為替レート (ウォン/米ドル)	802.67	803.45	771.27	804.45	951.29	1,394.57	1,395.26	1,300.77
国内総生産 (1兆ウォン)	267.1	306.0	352.0	389.8	421.0			
(GDP) (10億米ドル)	(332.8)	(380.8)	(456.4)	(484.6)	(442.5)			
一人当り GDP (米ドル)	7,554	8,567	10,175	10,709	9,623			
GDP 実質成長率 (%)	5.8	8.6	8.9	7.1	5.5			
通貨供給量 (M2・1兆ウォン)	112.2	133.2	153.9	178.3	203.5	219.6	219.6	229.4
(前年同期比増減率 %)	(16.6)	(18.7)	(15.6)	(15.8)	(14.1)	(16.9)	(16.9)	(21.2)
消費者物価指数 (1995=100)	90.1	95.7	100.0	104.9	109.6			
(前年同期比増減率 %)	(4.8)	(6.2)	(4.5)	(4.9)	(4.5)			
輸出 (fob, 100万米ドル)	82,236	96,013	125,058	129,715	136,617	35,162	11,575	10,166
(前年同期比増減率 %)	(7.3)	(16.8)	(30.3)	(3.7)	(5.3)	(▲1.1)	(▲6.6)	(▲13.9)
輸入 (cif, 100万米ドル)	83,800	102,348	135,119	150,339	144,636	23,660	7,764	7,095
(前年同期比増減率 %)	(2.5)	(22.1)	(32.0)	(11.3)	(▲3.8)	(▲36.7)	(▲36.8)	(▲43.9)
外貨準備高 (100万米ドル)	21,361	25,673	32,712	34,073	20,405	40,901	40,901	43,022

5. タイ (51.3万km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	58.01	58.71	59.40	60.00	60.60			
為替レート (バーツ/米ドル)	25.32	25.15	24.92	25.34	31.36	40.33	42.36	41.19
国内総生産 (10億バーツ)	3,170	3,631	4,189	4,598	4,827			
(GDP) (10億米ドル)	(125.2)	(144.4)	(168.1)	(181.4)	(153.9)			
一人当り GDP (米ドル)	2,158	2,459	2,831	3,024	2,540			
GDP 実質成長率 (%)	8.4	8.9	8.8	5.5	▲0.4			
通貨供給量 (M2・10億バーツ)	2,507.1	2,829.4	3,310.6	3,726.7	4,340.6	4,502.5	4,502.5	4,589.0
(前年同期比増減率 %)	(18.4)	(12.9)	(17.0)	(12.6)	(16.5)	(13.8)	(13.8)	(13.4)
消費者物価指数 (1990=100)	113.7	119.6	126.4	133.8				
(前年同期比増減率 %)	(3.4)	(5.2)	(5.7)	(5.9)	(7.7)		(10.7)	(10.7)
輸出 (fob, 10億バーツ)	935.9	1,137.6	1,406.3	1,412.1	1,807.1	527.5	191.5	192.5
(前年同期比増減率 %)	(12.8)	(21.6)	(23.6)	(0.4)	(28.0)	(45.2)	(56.3)	(33.6)
輸入 (cif, 10億バーツ)	1,166.6	1,369.0	1,763.6	1,832.8	1,924.3	429.4	153.7	153.6
(前年同期比増減率 %)	(12.9)	(17.4)	(28.8)	(3.9)	(5.0)	(▲3.6)	(1.2)	(▲6.0)
外貨準備高 (100万米ドル)	25,440	30,279	36,945	38,645	26,892	26,498	26,498	26,702

6. シンガポール (618km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	2.87	2.93	2.87	3.04	3.10			
為替レート (Sドル/米ドル)	1.616	1.527	1.417	1.410	1.485	1.645	1.695	1.708
国内総生産 (100万Sドル)	94,318	108,217	120,704	130,775	143,014			
(GDP) (100万米ドル)	(58,372)	(70,850)	(85,159)	(92,748)	(96,319)			
一人当り GDP (米ドル)	20,339	24,181	29,672	30,509	31,071			
GDP 実質成長率 (%)	10.4	10.5	8.7	7.8	6.8			
通貨供給量 (M2・100万Sドル)	82,130	93,980	101,968	111,951	123,444	128,747	128,747	
(前年同期比増減率 %)	(8.5)	(14.4)	(8.5)	(9.8)	(10.3)	(8.1)	(8.1)	
消費者物価指数 (1990=100)	108.2	111.5	113.5	115.0	117.3	117.2	116.9	117.1
(前年同期比増減率 %)	(2.3)	(3.0)	(1.8)	(1.3)	(2.0)	(0.3)	(▲0.2)	(▲0.3)
輸出 (fob, 10億Sドル)	119.5	147.3	167.5	176.3	185.7	45.5	15.9	
(前年同期比増減率 %)	(15.6)	(23.3)	(13.7)	(5.2)	(5.3)	(▲1.2)	(5.8)	
輸入 (cif, 10億Sドル)	137.6	156.4	176.3	185.2	196.6	46.4	14.5	
(前年同期比増減率 %)	(17.1)	(13.7)	(12.7)	(5.0)	(6.2)	(▲3.4)	(▲9.1)	
外貨準備高 (100万米ドル)	48,361	58,177	68,695	76,847	71,289	70,901	70,901	

アジア各国経済統計

図書館逐次刊行物課

1. 中国 (959.7万km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	1,178.4	1,191.8	1,204.9	1,217.6	1,230.4			
為替レート (元/米ドル)	5.762	8.619	8.351	8.314	8.290	8.279	8.280	
国内総生産 (10億元)	3,450	4,711	5,941	6,937	7,608			
(GDP) (10億米ドル)	(599)	(547)	(711)	(834)	(918)			
一人当り GDP (米ドル)	508	459	590	685	746			
GDP 実質成長率 (%)	13.5	12.7	10.5	9.5	8.8			
通貨供給量 (M2・10億元)	3,474	4,692	6,074	7,610	9,187	9,584	9,584	
(前年同期比増減率 %)	(42.8)	(35.1)	(29.5)	(25.3)	(20.7)	(14.3)	(14.3)	
消費者物価指数								
(前年同期比増減率 %)	(14.59)	(24.24)	(16.90)	(8.32)	(2.81)	(▲1.30)	(▲1.40)	
輸出 (fob, 10億元)	524.2	1,032.7	1,242.4	1,256.7	1,515.8	384.9	129.2	133.8
(前年同期比増減率 %)	(18.0)	(97.0)	(20.3)	(1.1)	(20.6)	(2.3)	(1.3)	(3.7)
輸入 (cif, 10億元)	594.0	987.4	1,103.0	1,155.1	1,178.6	288.5	98.2	99.1
(前年同期比増減率 %)	(41.1)	(66.2)	(11.7)	(4.7)	(2.0)	(2.3)	(5.5)	(▲6.6)
外貨準備高 (100万米ドル)	22,999	53,560	76,037	107,676	143,363	144,546	144,546	144,833

2. 香港 (1,045km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	5.90	6.04	6.16	6.31	6.50			
為替レート (香港ドル/米ドル)	7.736	7.728	7.736	7.734	7.742	7.747	7.746	
国内総生産 (10億香港ドル)	897.5	1,010.9	1,077.1	1,192.0	1,339.7	320.4		
(GDP) (10億米ドル)	(116.01)	(130.81)	(139.24)	(154.13)	(173.04)			
一人当り GDP (米ドル)	19,663	21,657	22,604	24,438	26,610			
GDP 実質成長率 (%)	6.1	5.4	3.9	4.6	5.3	▲5.2		
通貨供給量 (M2・10億香港ドル)	1,764	1,992	2,283	2,532	2,745	2,817	2,817	2,918
(前年同期比増減率 %)	(16.2)	(12.9)	(14.6)	(10.9)	(8.4)	(2.8)	(2.8)	(6.0)
消費者物価指数 (1994/95=100)	136.2*	97.0	101.9	108.3	114.7	119.2	119.0	
(前年同期比増減率 %)	(8.8)	(-)**	(5.1)	(6.3)	(5.9)	(3.9)	(3.2)	
輸出 (fob, 10億香港ドル)	1,046	1,170	1,344	1,398	1,456	346	117	119
(前年同期比増減率 %)	(13.1)	(11.8)	(14.9)	(4.0)	(4.2)	(▲3.1)	(▲2.0)	(▲12.8)
輸入 (cif, 10億香港ドル)	1,073	1,251	1,491	1,536	1,615	381	123	123
(前年同期比増減率 %)	(12.3)	(16.6)	(19.2)	(3.0)	(5.2)	(▲6.0)	(▲6.4)	(▲18.5)
外貨準備高 (100万米ドル)	43,013	49,274	55,424	63,840	75,341	77,858	77,858	77,844

3. 台湾 (3.6万km ²)	1993	1994	1995	1996	1997	1998 第2四半期	1998 6月	1998 7月
人口 (年央・100万人)	20.85	21.04	21.22	21.39	21.58			
為替レート (元/米ドル)	26.39	26.46	26.49	27.46	28.70	33.63	34.45	34.36
国内総生産 (10億元)	5,875	6,376	6,892	7,478	8,131	2,107		
(GDP) (10億米ドル)	(222.6)	(241.0)	(260.2)	(272.3)	(283.3)	(62.7)		
一人当り GDP (米ドル)	10,678	11,455	12,263	12,731	13,127			
GDP 実質成長率 (%)	6.3	6.5	6.0	5.7	6.8	5.2		
通貨供給量 (M2・10億元)	10,170	11,703	12,805	13,974	15,094	15,583	15,640	
(前年同期比増減率 %)	(15.4)	(15.1)	(9.4)	(9.1)	(8.0)	(8.1)	(8.0)	
消費者物価指数 (1990=100)	111.4	116.0	120.3	124.0	125.1	127.0	127.3	
(前年同期比増減率 %)	(2.9)	(4.1)	(3.7)	(3.1)	(0.9)	(1.7)	(1.4)	(0.9)
輸出 (fob, 10億元)	2,239	2,456	2,950	3,178	3,482	922	312	308
(前年同期比増減率 %)	(9.3)	(9.7)	(20.1)	(7.7)	(9.6)	(11.3)	(12.8)	(3.5)
輸入 (cif, 10億元)	2,035	2,262	2,743	2,785	3,276	880	296	273
(前年同期比増減率 %)	(12.0)	(11.2)	(21.3)	(1.5)	(17.6)	(12.2)	(9.8)	(▲3.8)
外貨準備高 (100万米ドル)	89,298	98,273	95,911	93,594	88,186	87,717	87,717	88,053

(出所) International Financial Statistics (IMF)、Key Indicators of Developing Asian and Pacific Countries (ADB)、Country Report (The Economist Intelligence Unit) および各国の統計資料に基づく。詳細は、図書館逐次刊行物課 (電話: 03-3353-4231、内線511) にお問い合わせください。

延辺大学の沿革

延辺大学朝鮮言語文学部教授 金虎雄



金虎雄

延辺大学は一九四九年四月一日に成立した民族大学です。現在、中国には三千あまりの大学がありますが、そのうち四年制本科大学は一千百カ所です。そのほとんどが中華人民共和国成立後に建てられたもので、延辺大学のように建国以前に建てられた大学は希少な存在です。

延辺大学は民族人士の養成を目指して朝鮮族が自分たちの手で作り上げた大学です。設立以後、苦難の連続で、教師たちの給料も朝鮮族の農民たちが供給してくれたお米等で現物供与していました。

延辺大学は建設初期、工学院、農学院、医学院が含まれていましたが、一九五八年に工学院がなくなり、農学院、医学院が独立してそれぞれ延辺農学院、延辺医学院となりました。現在、朝鮮族は、大学教授、学者、政治家、経営者等、中国の各分野で活躍しています。彼らはほとんどが延辺大学で教育を受けた人々です。

北京大学、復旦大学、洛陽外国語学院、吉林大学、東北師範大学、遼寧大学等で朝鮮学の研究に携わっている教授たちはみな、延辺大学出身者です。

政治面では、中央民族事務委員会主任の李德洙氏、吉林省省委員会書記・張徳江氏はじめ、中央、地方の党・政



延辺大学校内で軍事教練の真っ最中のところ

鮮族の民族大学としての誇りを持っています。二十一世紀には朝鮮族の人材の養成、科学研究、図書情報等の拠点として新たな側面を確立していくことを確信しています。

延辺大学の朝鮮言語文学部

延辺大学の数多くの学部の中で、朝鮮族と最も深い関係を持っているのが朝鮮言語文学部です。朝鮮言語文学部は、文字通り朝鮮語と朝鮮文学を柱としています。延辺大学の創立当時から存続してきました。五十年近くの間、当学部は朝鮮語と朝鮮文学の研究を続けてきたわけですが、同時に中国の朝鮮学の発展にも大きな役割を果たしました。朝鮮言語文学部はこれまで二十人以上の卒業生を出してきました。現在、卒業生たちは教育、科学研究、マスコミ、外交、貿易の分野で活躍しています。

一九八二年以降、当学部は中央政府國務院の批准を得て、修士課程の学生の募集を開始し、これまで四十五名の修士生を養成しました。さらに一九八八年からは博士課程の学生の募集を開始し、昨年までに十三人の博士を養成しました。

一九九四年以降、朝鮮言語文学部は、吉林省の重点学科として重点的に予算

配分を受ける対象となり、新たな発展の好機を迎えました。

その結果、当学部は拡大され、現在、朝鮮言語文学、朝鮮語教育、新聞編集の二つの学科を持っています。修士課程は朝鮮言語文学と比較文学の二つ、博士課程は朝鮮言語文学があります。

そして、朝鮮言語文学研究所、中朝比較文学研究所、民族教育院の三つの研究機関を持つ、高レベルの学部として内外に知られています。

現在、当学部は学生数三百人、教授数二十三人、留学生数十人です。

そして中国国内では北京大学、復旦大学、吉林大学、国外では朝鮮民主主義人民共和国の金日成総合大学、同国社会科学院、韓国のソウル大学、高麗大学、漢陽大学、国民大学、仁荷大学、忠北大学、群山大学等と交流関係を持っています。さらに米国、日本、ロシア、スウェーデン等の大学や研究機関との交流もあります。

二十一世紀を目前にして、延辺大学朝鮮言語文学部は、中国の朝鮮族の人材養成基地、科学研究基地、科学情報基地として、新たな躍進を目指しています。

(翻訳協力)延辺大学朝文系教授・尹允鎮

治部門で延辺大学出身者が活躍しています。

中国の朝鮮語関連の新聞、放送、出版、教育等各分野でも活躍しています。朝鮮族の作家たち、林元春、李元吉、李相民、金心俊、朴樺の各氏はみな延辺大学の朝鮮言語文学部の卒業生です。

また、延辺大学を代表する教授等、鄭判龍、朴文一、崔允甲、權哲、姜貴吉各氏もみな延辺大学の卒業生です。

延辺大学は文化大革命の時、民族政策が抹殺され、民族大学としての性格が失われましたが、四人組の打倒によって文化大革命が事実上の終わりを迎えた後、延辺大学の民族的性格も回復されました。そして八〇年代以降の新時期に入って、大学はさらに発展することになりました。

一九八二年、朝鮮言語文学学科等が中央政府國務院から博士号の授与権を与えられ、大学のレベルと權威が一気に上がりました。一九九四年には歴史学部が同権利を与えられました。現在まで十三人の博士を輩出しています。

重点大学となった延辺大学

二十一世紀を目前に控え、延辺大学にはさらに大きな変化が生じました。中国では数年前から二十一世紀に向けた教育改革を進めています。その計画

を「二十一工程」と言います。

この「二十一工程」とは、現在、中国にある一千百カ所の大学のうち百カ所の重点大学を選別していく計画があります。これを受けて、延辺の五大学、すなわち延辺大学、延辺医学院、延辺農学院、吉林省芸術学院延辺分院、延辺師範学校が合併し、総合大学として生まれ変わりました。現在、延辺大学には師範学院、医学院、農学院、工学院、人文学院、芸術学院、体育学院の七学院があり、これらの下に四十四学部があります。大学の学生数は八千人、教職員数四千人。この規模と業績が認められ、百重点大学の一つに認定されました。

文革後、回復された民族性

延辺大学は一九六五年まで学生、教員ともに九〇％以上が朝鮮族でした。この時までは、民族性が国家で配慮されていたのです。ところが文化大革命によって大学の民族性は否定され、多くの漢族の学生や教員が入ってきて、朝鮮族の学生や教員は農村に下放されました。

四人組の打倒によって文化大革命が終焉し、中国共産党は文革の誤りを認め、延辺大学の民族性の回復を認めました。そして現在、延辺大学は中国朝

ようこそレインボー通商へ

조선어전문서점에 어서 오세요.

안녕하십니까. 朝鮮専門書店のレインボー通商、宮川淳（미야가와 준）と申します。
中国朝鮮族のみなさまには、おなじみの中国で発行された朝鮮語の本、中国語で書かれた朝鮮関係の本や、北朝鮮の本がずらり店内に並んでいるところです。

店主の私は、まったくの日本人なのですが、1992年、旧知のソウルの知り合いが世界三大歴史実録書（明実録、清実録、李朝実録）の1つ、朝鮮民族のことを記した「李朝実録」の北朝鮮で発行されたものの独占販売権を中国朝鮮族経由で取得、その販売を手伝ってくれないかということで始めたのが北朝鮮の図書類を扱い始めたきっかけです。

もともと大阪にいたときに、日本と韓国のビジネスの橋渡しみたいなことをやっていまして、当時から何か韓国の上（という感覚でした）に「北朝鮮」という国があるなど、漠然と将来は何か南北を繋げることに貢献することや北朝鮮と関わりがあることができたらと頭の片隅にあったところへの北朝鮮の物件の話でした。

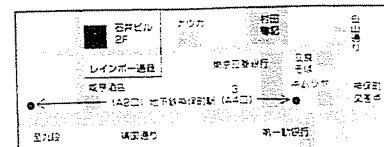
学生の頃から、戦争でハルビンに将校として行っていた祖父から食事のときなどによく、満州のことや、その祖父のところに四国の高知から祖母が行くのに当時、宇高連絡船で岡山に渡り、下関を渡って釜山に入り、38度線がありませんでしたので京城、平壤を通してハルビンに入り、帰ってくるときは汽車を間違えて林口まで子どもを背中にしょって行ったとか、行きとは違う線（清津経由だと思います）朝鮮半島を帰ってきたとか聞かされていまして、中国東北地方には親近感がありました。

ちなみに、祖父・野崎元徳は戦後、B級戦犯になり巣鴨の刑務所にも”お世話”になっていましたが、捕虜を管轄する立場にあったとき、決して捕虜を虐待したり危害を加えたりしなかったということで、当時の捕虜にされていた側の隊長夫婦（英国のウインザー城近くでホテルを経営）が昭和49年（1974年）、観光で日本に入ったとき、朝日新聞夕刊全国版で野崎隊長に会いたいと呼びかけたほどでした。

話しは現在に戻って、ピョンヤンからは随時、新刊が正規のルートで送られてくるほか、年3回（2月16日ははさんで、5月ゴールデンウィーク、8月お盆）の当店主催の朝鮮旅行や延辺ルートから、図書のほか、VIDEO、CD、宣伝画、サッカーのユニフォームや、いろんなグッズを入れています。今は、延辺の方には北朝鮮は少ししか本を出さなくなっていますので、ぜひ活用していただければと思います。北朝鮮の最新情報がぎっしり詰まっている店です。

かつての中国と同じ社会主義路線を進める北朝鮮は長い歴史の中から見れば、国家の舵取りで非常に大事な時期にきているのではと思います。朝鮮にご縁の深いみなさまとともに、中国東北地方、朝鮮半島の安定、発展に寄与していくことができればと思います。

朝鮮が今、あなたを待ってます。



朝鮮専門書店 レインボー通商
千代田区神田神保町2-12
石井ビル（絵のあるビル）2F
TEL/FAX 03-3239-8887

朝鮮専門書店レインボー通商

101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-12

TEL/FAX 03-3239-8887